

一般社団法人映像情報メディア学会
第 6 7 回 定 時 社 員 総 会 資 料

2 0 2 1 年 5 月 2 8 日 (金) 1 5 時 ~

< 於 > 機械振興会館 + オンライン

一般社団法人映像情報メディア学会
第67回定時社員総会式次第

開催日時：2021年5月28日（金）15：00～16：10（予定）

会 場：機械振興会館6階6D-1、2会議室 + オンライン（MS-Teams）

議 長：児野昭彦会長 司 会：松田一朗総務理事

次 第

会長挨拶 児野昭彦 会長

開会の辞 今井 亨 副会長

議 題

議 案

- | | | |
|----|----------------------|-------------|
| 1. | 2020年度 事業報告（資料1） | 松田一朗 総務理事 |
| 2. | 2020年度 決算報告（資料2） | 森住俊美 会計理事 |
| 3. | 2021年度 理事・監事の選任（資料6） | 齋藤英雄 副会長 |

報告事項

- | | | |
|----|------------------|-------------|
| 1. | 2020年度 監査報告（資料3） | 三嶋英俊 監事 |
| 2. | 2021年度 事業計画（資料4） | 石井紀彦 総務理事 |
| 3. | 2021年度 予算（資料5） | 星沢 拓 会計理事 |
| 4. | 選奨選考結果・フェロー認定者 | 松田一朗 総務理事 |
| 5. | 2021年度 役員担務 | 齋藤英雄 副会長 |

挨 拶

退任役員代表挨拶	児野昭彦 会長
退任役員に対する謝辞	齋藤英雄 副会長
新会長挨拶	田中孝司 新会長

閉会の辞 石橋 豊 副会長

2020年度事業報告

1. 総括（担当：松田総務理事）

1950年の創設から70年目の節目を迎えた本学会は、テレビ放送や通信ネットワーク等の放送通信の媒体、情報処理・伝送・撮像・記録・表示のハードウェア・ソフトウェアに関する技術、立体映像やバーチャルリアリティに関する技術、そして映像を中心としたコンテンツの生成と流通に関する学術振興並びに研究開発の発展に貢献する役割を担っています。その目的を達成するため、機関誌、論文集の刊行、年次大会や冬季大会、研究会、講演会等のさまざまな事業活動を行っています。これらの事業活動には、理事会のほか、専門の分野を担当する委員会を設置して学会活動の円滑な運営に努めてきました。

本年度は、2020年5月の総会において、下記の基本施策を設定して学会活動を進めてきました。

- (1) 学会の活性化
- (2) 新分野の開拓
- (3) 広報活動と会員サービスの拡充

2020年度の終了を迎え、上記の各計画項目の達成状況は以下のようになりました。

<2020年度事業計画と達成状況>

(1) 学会の活性化

事業計画は、「学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとして目的ごとに設置された委員会を実行部隊とし、理事会との情報共有を密に図りながら活動を進める」というものでした。具体的には11の委員会が中心となって、前年度に取り纏めたアクションプランおよび申継事項をもとに、理事会と各委員会の情報共有を密に図りながら問題解決に取り組んでまいりました。達成状況は以下の通りです。

各委員会が取り纏めるアクションプランについては、解決すべき課題と進捗状況が一瞥して確認できるように書式を簡素化し、全委員会の活動をまとめた年間スケジュール表と共に管理することで活動状況の可視化を図りました。これらの情報は、アクションプランを随時更新しつつ理事会に報告し、2021年4～5月に最終報告と次年度への申し送り事項にまとめて総括しました。

今年度の理事会は、新型コロナウイルス感染症への対策として全てオンライン会議またはメール審議の方法で運営することとし、全理事と監事が出席する定例理事会の開催回数も10回から8回に削減して効率的な審議を心掛けました。また、オンライン化によって会議のための移動が不要となったことから、開催時刻を繰り上げて参加者の負担を軽減すると共に、地方の支部長や代表代議員にも参加を呼びかけることで、オープンな議論を促進する効果が得られました。また、副会長と総務担当理事による理事会前の打ち合わせ（総務会）もオンラインで開催することで、円滑な議事進行を実現できました。

学会予算は、年度当初の計画では約881万円の赤字予算でのスタートとなりました。これは会員数減少の影響や、中止となった年次大会やテストチャート事業の収入の落ち込みを見込んでのものでしたが、研究会の参加費有償化によって新たな収入が生じたことに加え、委員会や研究会、創立70周年記念大会といったイベントのオンライン化に伴う経費削減が功を奏し、また、持続化給付金、家賃支援給付金などの受給もあり黒字化を達成することができました。

学会活性化の最重要課題である会員増強策については、残念ながら会員数減に歯止めをかけることができず、新型コロナウイルス感染症による経済の低迷を反映して、企業が主体の維持会員の口数も微減となってしまいました。一方、アカデミックパートナー制度を活用した学生会員数は増加しており、また年次大会と冬季大会を統合して12月に開催された映像情報メディア学会創立70周年記念大会は、オンライン化の効果と相まって例年以上の参加者を集めることができました。特に無料開催となった創立70周年記念講演会「映像情報メディアのグランドチャレンジ」は、アクセスログから集計したユニーク参加者数が338名に達し、本学会が主催する催しとしては過去に例のない大盛況のイベントとなりました。このような非会員も多数参加するイベントで本会の魅力をアピールできたことは大きな収穫であり、これを会員増に繋げることが今後の課題となります。

本部役員と各支部との対話活動については、学会創立70周年記念大会の会期中に支部長会議を開催することを計画していましたが、大会自体がオンライン実施となったために見送りとなり、改めて翌年5月にオンラインの支部長会議を開催しました。また、前記のように定例理事会に支部長や支部長代理の参加を呼び掛けると共に、オンライン開催が中心となった今年度の支部大会に本部役員も参加することで、本部と支部の相互の対話機会を確保して連携を深めました。

(2) 新分野の開拓

事業計画は「従来の分野にとらわれず、映像情報関連の幅広いテーマを積極的に取り上げ、これまでとは異なる層の技術者の興味を喚起すること」を柱に掲げていました。達成状況は以下の通りです。

今年度の最重要イベントと位置付けた映像情報メディア学会創立 70 周年記念大会(12/22(火)～12/24(木)、参加 502 名)では、オンライン開催という制約がある中、「目と物体の間に存在する光学特性を変える光学デバイス」、「映像情報メディアの発展を支えるイメージセンサ」、「アフターコロナにおけるローカル 5G がもたらすイノベーション」、「メディアエクスペリエンスに関する取り組み」といった幅広い技術分野をカバーする企画セッションに加え、スポーツ情報処理に関する 2 件の招待講演、2019 年度各賞受賞企業によるデモ動画展示といった魅力的なイベントを実施し、例年を大幅に上回る参加登録者数を記録しました。また、大会 2 日目に開催された創立 70 周年記念講演会「映像情報メディアのグランドチャレンジ」(12/23(水)、14:00～17:15、参加 338 名)については、学会創立 70 周年記念事業 WG の直轄プロジェクトとして準備を進め、前記の通り多数の参加者を集めて本学会の創立 70 周年の節目に花を添えることとなりました。

他学会との連携強化では、日本写真学会・日本印刷学会・日本画像学会・IS&T が共催、本学会・日本視覚学会・画像電子学会が協賛の国際会議 ICAI (International Conference on Advanced Imaging) を 2020 年 11 月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により 2021 年秋に延期となりました。引き続き実行委員会に参加し、実施に向けた準備を進めています。また、毎年日本国内で米国 SID (Society for Information Display) と共催する国際会議 IDW (International Display Workshops) 2020 (12/9(水)～12/11(金)) はオンラインでの開催となりました。このほか、電子情報通信学会・電気学会・情報処理学会・照明学会と年 2 回開催している連絡協議会についてもオンラインによる開催を継続し、活発な情報交換を行いました。

海外学会との交流については、新型コロナウイルス感染症の世界的流行による渡航制限のため相互の講師派遣は叶いませんでしたが、映像情報メディア学会創立 70 周年記念大会において韓国放送メディア技術学会 (KIBME: Korean Institute of Broadcast and Media Engineers) とのジョイントセッション「日韓の地上放送高度化の現状と課題」を開催し、映像メディア技術の動向・展望についての意見交換の場を継続することができました。

(3) 広報活動と会員サービスの拡充

事業計画は「ホームページやメーリングリスト、各種 SNS を活用した情報発信は、有効な広報手段として 2020 年度も積極的な活用を図る」というものでした。達成状況は以下の通りです。

当学会のホームページは、今年度も有効な広報手段として活用してきましたが、学会が契約している専用 Web サーバの OS や周辺ソフトウェアのバージョンがやや古く、コンテンツ管理システムの更新に支障をきたすことが判明したため、広報委員会において問題解決のための検討を開始することになりました。また、会員向けメーリングリストは約 3 日に 1 通のペースで情報発信を続け、また、SNS でも会誌特集案内を発信するなど主要な会員サービスとして定着しています。

2019 年度末は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて多くの研究会活動がやむを得ず中止に追い込まれましたが、2020 年度はいち早くオンライン化へ舵を切ることで、年間 44 回の開催予定のうち 34 回の開催を実現できました。オンライン研究会は現地での会員同士の交流という点では大きな制約が生じますが、地理的な移動が不要となって気軽に参加できるという利点もあり、会場費の削減と共に参加費有償化による収益を押し上げる効果をもたらしました。

今年度は学会が創立 70 周年を迎えることから、学会の存在を広くアピールする機会と捉えて広報活動に力を入れました。その一環として、創立 70 周年の記念ロゴを制作し、学会ホームページや会誌をはじめ様々な場面で周知を図りました。創立 70 周年記念事業としては、学会誌 2020 年 9 月号に「本学会の直近 10 年間の主な活動記録と今後 10 年間のグランドチャレンジ」と銘打った特集号を掲載すると共に、12 月に年次大会と冬季大会を統合した映像情報メディア学会創立 70 周年記念大会を 3 日間にわたって開催しました。その目玉企画である創立 70 周年記念講演会では、トヨタ・リサーチ・インスティテュート・アドバンスト・デベロップメント CTO の鯉渕健氏による「すべての人に移動の自由を — トヨタの自動運転技術開発の取り組み —」、サイバーエージェント動画技術エバンジェリストの五藤佑典氏による「より高品質なメディアサービスを目指す ABEMA の技術進化」という 2 件の記念講演と、当学会を代表する 3 研究会による「研究委員会の今後 10 年間のグランドチャレンジ」と題する報告会をオンラインのライブイベントとして無料開催し、多くの聴講者を集めることとなりました。また創立 70 周年記念大会では、今年フェロー認定された 4 名の会員によるフェロー記念講演会を実施しました。これらの相乗効果により、大会を通じての参加登録者数は例年に比べて大幅増となり、うち一般非会員の発表・聴講参加者 21 名に対して、昨年度導入した準会員制

度（当該年度に限り無料で会誌電子版とメールマガジンの購読ができる制度）の案内を送付しました。

以上の施策を通じて、2020年度は学会の活性化と新分野の開拓、広報と会員サービスの充実に取り組んできました。新型コロナウイルスの世界的な流行という想定外の事態に見舞われ、研究会活動をはじめ多くのイベントがオンライン化を余儀なくされるなど様々な困難が生じた1年でしたが、協賛団体と会員各位のご理解・ご協力のもと、計画されていた事業を概ね遂行することができました。引き続き本学会は、ポストコロナの社会情勢に対応しつつ、映像情報メディアに関する技術分野の発展に貢献してまいります。

2. アクションプランの設定内容と達成状況

2020年度に設置された11の委員会のアクションプランの設定内容と達成状況を以下に示します。

① 広報委員会（担当：高橋企画担当理事）

広報活動として、昨年度同様、SNS（Facebook, twitter）とホームページ、メールマガジンが連携するシステムをベースに適宜情報発信を行いました。しかし、本学会が契約している専用WebサーバのOSや周辺ソフトウェアのバージョンが古くなり、ホームページの運用改善が困難であることが判明しました。現状のサービスを最低限維持しつつ、今後の活発な広報活動が可能な運用体制に向けた検討を始めました。また、業界展示会を通じた広報活動として、例年、InterBEEにて本学会ブースを設置し、本学会のPRを行っていましたが、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催になったため本年度の参加は見合わせました。次年度以降、状況に応じてPR活動の継続を行っていきたいと考えています。

② 年次・冬季大会実行委員会（担当：菅野調査担当理事）

2020年は、当初東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていたため、年次大会の開催は見送りととなり、冬季大会は学会創立70周年の記念大会として開催されました。創立70周年記念大会は2020年12月22日（火）～12月24日（木）の3日間の日程で、大会としては初めて全てオンライン（Microsoft Teamsを利用）で開催されました。一般講演27セッション148件（フェロー記念講演4件、招待講演2件含む）、企画講演5セッション29件、デモ展示1セッション8件、及び記念講演5件で構成され、3日間の延べ参加人数は1,367名（記念大会1,029名、創立70周年記念講演会338名）と、大会としては前年から比較的参加人数が増加した2019年冬季大会（1,024名）と同水準になりました。

映像情報メディアに関わる幅広い分野を網羅する当学会に特徴的な、映像情報メディアを支えるデバイスやセンサに関する企画「目と物体の間に存在する光学特性を変える光学デバイス」「映像情報メディアの発展を支えるイメージセンサ」は聴講者の興味も高く、いずれも60名以上の参加者を集めました。また、昨今のコロナ禍の状況を鑑みた「アフターコロナにおけるローカル5Gがもたらすイノベーション」と題した企画セッションや、韓国放送メディア技術学会KIBME（The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）とのジョイントセッション「Broadcasting Technology and Media」も行われ、オンラインながら活発な議論が行われました。また、例年オンラインで行われる各賞受賞企業によるデモ展示については、オンライン開催のため動画8件として公開され、70周年記念大会Web内の特設ページで閲覧できるようにしました。

一方、記念大会の中日である12月23日（水）の午後には、70周年記念講演会が実施されました。記念講演会は聴講無料とされ、「映像情報メディアのグランドチャレンジ」をテーマとして、Microsoft Teamsのライブイベントによりオンライン開催され、338名の聴講者が参加しました。記念講演1として、トヨタ・リサーチ・インスティテュート・アドバンスト・デベロップメントCTO（現ウーブン・プラネット・ホールディングスCTO）の鯉渕健氏による「すべての人に移動の自由を—トヨタの自動運転技術開発の取組み—」、記念講演2としてサイバーエージェント動画技術エバンジェリストの五藤佑典氏による「より高品質なメディアサービスを目指すABEMAの技術進化」が行われ、映像情報メディアの応用分野として近年大きな注目を集めている自動運転技術や、新しい映像情報メディアとして発展を見せているネット映像技術・配信技術に多くの関心が集まりました。さらに、記念講演会の後半では「研究委員会の今後10年間のグランドチャレンジ」と題した報告が行われ、情報センシング研究委員会秋田純一委員長、放送技術研究委員会村田英一副委員長、メディア工学研究委員会田良島周平幹事・石井大祐委員が登壇し、進行担当との間で活発な質疑が行われました。

今回の大会は全てオンラインで開催されたため、会場への入室（アクセス）についてはセッション参加リンクの一覧をID・パスワード認証付きでWebページに掲載し、参加登録者へ通知する形を採りました。また、講演者や座長を対象として大会が開催される前週に、自身の講演会場への接続及びプレゼン資料の画面共有などについて事前確認テストの機会を設けました。その結果、大きな問題もなくオンラインでの大会運営を実現することができました。尚、講演申込期間と大会期間において8名の新規入会があり、大会終了後には一般非会員の発表・聴講参加者21名へ準会員制度を案内しました。

③ 編集委員会（担当：山崎編集担当理事）

学会員の満足度を向上させる企画作りと情報提供の強化に向けて、定期的に行われる編集委員会および部門委員会で、様々な観点から学会誌の在り方および提供情報内容について検討・議論を行い、施策を進めました。

学会誌が学会員と学会を結ぶ重要な役割を担っていることを鑑み、多様な学会員のニーズに応えるとともに、より充実した情報内容の提供を心がけました。利便性を高めるためWebページからダウンロードによる会誌閲覧を可能にするとともに、メールマガジンによる学会誌目次の配信等を通じて、学会員に対するタイムリーでコンスタントな情報提供を図りました。

＜各部門の検討内容と結果＞

(1) 会誌部門

学会誌のページ数を考慮したうえで、会誌アンケート、代議員モニタ、支部長会議、研究委員会等からの要望を汲み取り、学会誌の品質の維持と学会員からのニーズに十分にえられる会誌作りに努めました。具体的には、特集、技術解説、研究動向、話題、講座等を魅力ある内容とするとともに、記事間のバランスにも配慮した編集方針で運営し、今年度（2020年5月号～2021年3月号）は、特集61編、技術解説や解説記事10編、それ以外にも多数のシリーズ企画を掲載し、タイムリーな情報を学会員に提供しました。一方で、シリーズ企画の再検討を行い、アンケート評価の高い「異業種での映像情報メディア利用」、「ベンチャービジネス」は、基本的に毎号掲載を継続し、その他のシリーズについては、掲載頻度を減らして継続することとしました。「輝け！リケジョ」については時代の要請を鑑み、文系・理系や性別の区別のない新しいシリーズ「きらり、中のヒト」に移行しました。また、引き続き、相乗効果によって学会活性化と学会員の満足度向上に資するよう、学会内の様々な委員会やイベントと会誌の連動企画を検討しました。今年度は、論文委員会との企画や年次大会との連動企画を掲載しました。加えて、学会誌に新しい魅力を加えるべく、新連載講座「データセンターのインフラ技術」を2020年3月号から開始しました。

(2) 海外文献部門

今年度は、海外文献部門委員会は、文献公開用のシステム運用・管理者（部門副委員長）の長期療養のため、公開作業が出来ないことから、部門委員会を一時休会し、文献調査等の作業を休止いたしました。休止により、会誌に毎号掲載しておりました海外文献紹介も休載いたしました。次年度は作業を再開し、会誌への海外文献紹介掲載も再開いたします。

(3) ニュース部門

今年度は、昨年度の部門委員会運営見直しにより、記事選定等の審議はメール審議で行いました。また毎年掲載の「国際放送機器展見聞記」は、2020年はコロナウィルス感染予防により、機器展がリモート開催となり、取材が十分に出来ないため、掲載は行わないことといたしました。

④ 論文委員会（担当：洗井編集担当理事）

2020年度の論文委員会の構成は、篠田浩一委員長（和文論文編集委員会委員長、MTA編集委員会委員長兼務）、和文論文編集委員会副委員長の藤井俊彰委員と三ッ峰秀樹委員、MTA編集委員会副委員長の佐野雅規委員と河村圭委員、編集担当理事（1年目）の洗井淳委員、編集長の佐藤真一アドバイザーの7名でした。幹事には、佐野雅規委員が指名されました。

6月の新体制後の委員会では、活動方針、現況把握、特集号の企画などの確認を行うとともに、MTAでのインパクトファクター（IF）取得や査読功労賞・論文編集功労賞の受賞条件、論文投稿数・特集企画増加への施策、和文論文誌掲載料の見直しについて検討しました。

10月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、和文論文の

編集作業のフロー改善について検討しました。

2月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行いました。また論文査読功労賞・論文編集功労賞の受賞条件について、2011年からの毎年のデータを累積し、決められた件数に達する毎に表彰（既受賞者はゼロリセット）する規程の改定案を作成し、3/25理事会で報告しました。さらに、論文賞候補を和文論文、MTA論文からそれぞれ3編、合わせて6編の論文を選定し、委員会後に推薦文の修正を行い、メールにて最終確認の上、選奨委員会へ提出しました。

(1)和文論文関係

・2020年度（2020年5月号～2021年3月号の計6号）は、29編の論文等を掲載しました（論文20編（招待論文10編含む）、研究速報3編、フィールド論文3編、特集巻頭言3編）。

（参考：2019年度の掲載数は論文22編（招待論文8編含む）、研究速報4編、フィールド論文2編、特集巻頭言2編）

・和文論文編集委員に論文特集を企画していただける体制を作るため、年一回程度のオリエンテーションミーティングの開催について、継続して検討しています。また、2021年度の新体制に向けて、各研究委員会に2名の和文論文編集委員をご推薦いただくよう、2021年3月2日に開催された技術委員会でご協力をお願いしました。

・論文掲載に必要なコストおよび他学会の掲載料を確認し、和文論文誌の掲載料について、他学会と同等もしくは下回る方向で検討を行いました。

(2)MTA関係

・2020年度（2020年7月号～2021年4月号の計4号）は、39編の論文等を掲載しました（論文34編（招待論文4編含む）、特集巻頭言5編）。（参考：2019年度の掲載数は（論文23編（招待論文3編含む）、特集巻頭言4編）

・IF取得の審査に影響する海外の編集者を追加するため、各研究委員会にご推薦いただく2名の編集委員の内、1名は海外の方をご推薦いただくよう、2021年3月2日に開催された技術委員会でご協力をお願いしました。

⑤ 技術委員会（担当：菅野調査担当理事）

研究会活動ではCOVID-19の影響を受け、開催数は昨年度より10回減少しており、全てオンラインで開催されている状況です（大部分がZoom）。コロナ禍において発表件数は全体的に減少傾向であるのに対し、聴講参加者数は昨年と同様または増加しているケースもあり、研究会活動としては停滞している状況にはないと言えます。オンラインでの研究会開催にあたっては、先行してオンライン開催を開始した研究会のノウハウを共有するなどして円滑に推進しています。オンラインでの開催に伴い、研究委員会活動予算における会場費の支出が大幅に減少したため、調査研究費の支出実績が縮小している状況です（3月末で50%）。一方、2020年度より参加費有償化が本格的に運用されており、順調に推移しています。参加費の支払い手続きをオンライン化したことにより、発表者及び聴講参加者の利便性は向上したものと考えられます。尚、昨年度と同様に、研究会活動の活性化に繋がる新規イベント等を奨励するための研究会活性化費（研究会とは別の有料のセミナーやシンポジウム等の補助）を設定し、申請を受け付ける運用を行いましたが、コロナ禍ということもあり今年度を実施された施策はありませんでした。

なお、2016年に発足し2020年度までの活動期限としていたスポーツ情報処理時限研究委員会については、コロナ禍によりアスリートに接触できる機会が激減し、所掌分野の研究活動が停滞しており、当面の見通しも不透明であることから、2021年3月末を以て活動を終了することが研究会委員長より提案され、理事会で承認されました。

今後、コロナウィルスの状況が落ち着いた場合を想定して、オンサイトでの開催再開に向け他学会の方針を参考に運用マニュアルの整備を検討しています。

⑥ 選奨委員会（担当：松田総務担当理事）

学会選奨規程に基づき丹羽高柳賞については、功績賞2名、業績賞2件、論文賞3編、鈴木記念奨励賞については3名を選考しました。技術振興賞については、進歩開発賞（現場運用部門）2件、進歩開発賞（研究開発部門）2件、コンテンツ技術賞3件を選考しました。また、映像情報メディア未来賞は、昨年度までフロンティア賞と次世代テレビ技術賞の2部門で選奨を行っていましたが、「テレビ」という名称が応募者の対象を限定してしまう可能性があるとの昨年度からの申継事項に対応するため、第3回定例理事会（10月開催）での検討を経て第1回選奨委員会（11月開催）にて選奨

規定の改定を行い、今年度は両部門を映像情報メディア未来賞に統合した上で選考を行い、最終的に1件を選定しました。

その他の昨年度申継事項への対応として、技術委員会における各研究委員会委員長への各賞候補者推薦依頼、各放送局技術部門責任者、放送局他の維持会員社への郵送による応募推奨、ホームページでの告知を通じて応募者数の増加を図りました。また、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、応募者のプレゼンを伴う選考を急遽書面審査に切り替える措置を講じましたが、今年度は予めオンラインによるプレゼンと質疑応答を行う旨を周知し、事務局による事前準備を入念に行ったことで、概ね円滑かつ公平な審査が実現できました。各選考部会や選奨委員会において今年度の選考方法を検証した結果、オンラインによる審査は応募者および選考委員の地理的な不平等を解消する効果があり、平常時でも有効な手段であるとの意見が主流でしたが、映像や音声の品質等に一部問題が生じたことから、プレゼン資料の提示方法や応募者側のオンライン接続数制限等を今後の検討課題としました。また、適正かつ効率的な選考を実現するため、応募部門の事前調整や投票方法の見直しについても次年度に申し継ぐこととしました。

⑦ フェロー選定委員会（担当：石井総務担当理事）

2021年は、規定の手順に従ってフェロー5名を選出しました。なお、第1回、第2回フェロー選定委員会ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインの開催となりました。

5名の選出にあたり、フェロー選出規程第13条第3項「フェローの総数は、正会員および名誉会員の合計数の5%相当を上限とする。」に照らし、2468名の5%は123.4名であり、現時点のフェロー総数は121名であることから、5名を選出しても5%相当の解釈から許容できる範囲であることを確認して、5名の選出に至りました。

前年からの申し継ぎ事項として、フェロー選出規定第10条3項「レフリーは、フェロー候補者と同じ組織に属さないものとする。」では、過去の所属に言及していない点から、「レフリーは、過去5年以内にフェロー候補者と同じ組織に属していないものとする。」との変更を行い、明確化しました。

フェローの総数について、すでに正会員および名誉会員の合計数の5%相当に達しているため、フェロー認定制度は継続して運用すべきだが他学会の基準を参考に規定を検討するなど、来年以降の運用について申し継ぎ事項としました。

⑧ テストチャート委員会（担当：菅野調査担当理事）

2018年度にロケにより制作した超高精細・広色域HDR版標準動画像Cシリーズは既に頒布を開始しております。一方、HDR素材としてライティングを施して撮影したCシリーズ追補版については、2019年1月末に撮影を終え、2020年度内の頒布開始を目指しておりましたが、頒布素材の種類の選定やシーケンスの切り出し作業、さらに頒布価格の設定などの検討課題を残しつつ実質的な進捗がありませんでした。引き続き、小委員会にて検討課題の議論を進め、本委員会にて進め方を検討致します。

また、高フレームレートHFR版標準動画像Dシリーズや、22.2マルチチャンネル標準音源Bシリーズについても、今年度は進捗がありませんでした。Dシリーズの制作については、ニーズのヒアリングを継続して実施していますが、特に民放局の間では現時点でHFR版への需要は低いため、引き続きニーズの調査を進める予定です。標準動画像Dシリーズ及び標準音源Bシリーズに関するニーズを収集し、それらを基にARIB評価シーケンス作業班や音声作業班と連携して検討を進めていきます。

⑨ 国際会議検討委員会（担当：高橋企画担当理事）

国際会議の企画運営や国際間相互協力等に関する国内外の関連学協会との関係構築と維持を行うことを通じて、本学会の活性化や会員サービスの向上につとめました。昨年に続きSIDと共催するIDW2020(ディスプレイ国際ワークショップ)に参画しました(2020年12月9日～11日 Virtual Conference)。一方、ICAI2020(International Conference on Advanced Imaging)(日本画像学会、日本写真学会、日本印刷学会他)が2020年11月1日～6日、幕張メッセで開催を予定しておりましたが、開催時期が1年延期となったため実行委員会への参加は次年度も継続することとなりました。

海外学会との連携では、韓国放送メディア学会(KIBME:The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)との協力を行いました。昨年までは本学会の年次大会においてKIBMEからの発表者を迎えた発表を行っていましたが、本年は本学会の冬季大会が創立70周年記念大会として開催さ

れたことにともない、記念大会の企画セッションとして開催しました。KIBME から 4 件、本学会から 4 件の発表者を迎え『KIBME/ITE Joint Session -Broadcasting Technology and Media-』と題したセッションを企画しました。また、昨年度同様、KIBME2020 秋季大会への講演講師派遣を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で実施できませんでした。来年度以降、状況に応じて講演講師派遣が再開できればと考えております。

⑩ 映像情報メディア発展事業資金運営委員会（担当：森住会計担当理事）

本委員会では、①海外学会での学生発表援助②各種企画にむけた資金活用③会員増にむけた資金活用を 3 本柱とした活動を予定しておりました。しかしながら、2020 年度においてはコロナ禍により、映像情報メディア発展に寄与する活動そのものが大幅に制限されたため、資金を有効に活用できる機会もほとんどなく、資金活用の申請も僅か 1 件に留まりました。

【資金活用の事例】

事業名：映像情報メディア学会関西支部 優秀論文発表賞

申請金額：18,744 円

期待される効果：映像情報メディア学会の発展に寄与する論文の講演発表を表彰することで、当学会に対する理解と活動促進が図られ、且つ学生や社会人の学会加入の促進が期待できる。

委員会の活動：

- 2021 年 3 月 8 日に映像情報メディア学会事務局より映像情報メディア発展事業資金利用申請があった旨の連絡を受領。同年 3 月 12 日正午を以て切としたメール審議を実施。
- 全委員 6 名のうち 4 名から承認する旨と、特段の反対意見がなかったことにより同申請を承認することとした。

次年度も当面はコロナ禍が継続する事が予想されるため、海外学会での学生発表援助や各種企画にむけた資金活用は今年度同様に低調となる事が見込まれるが、会員増にむけては喫緊の課題であるため、他委員会との連携強化の他、独自施策の検討等を次年度に申し継ぐこととしたい。

⑪ 長期計画検討委員会（担当：松田総務担当理事）

本委員会では、日本における少子高齢化や本学会と関連の深い産業界の動向などの社会情勢の変化、学会の財政状態や会員数の推移などの状況を踏まえて、長期的視点から学会活動の方針を検討し、理事会に対し、課題解決に向けた実行を促すことで、学会の維持発展に寄与する活動を行っています。

2020 年度は、昨年度提言された理事会活動の効率化について更に検討を進め、開催回数を 10 回から 8 回に削減すると共に、うち 2 回をメール審議、残りをオンライン会議とすることでコロナ禍の状況下での理事会構成員の負担を軽減し、重要議案に集中して取り組める環境を実現しました。また、オンライン会議のメリットを活かし、地方支部長や代表代議員の理事会出席を呼び掛けることで、オープンな議論の場を創出しました。会員数の増加に向けた取り組みとしては、昨年度導入した準会員制度を継続実施し、学会創立 70 周年記念大会に参加した一般非会員 21 名を準会員として新たに登録しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため委員会の開催が制限され、新たな提言を取りまとめるまでには至りませんでしたが、ポストコロナの状況を見極めつつ長期的な学会運営の方向性を議論する場として活動を継続する予定です。

2020年度事業報告の附属明細書

1. 会員数の異動（2021年3月31日現在）

注：同日付退会者を「退会」に含む，同日付資格喪失者を「資格喪失」に含む

	名誉会員	正会員	学生会員 (内アカデミック学生)	維持会員	特殊会員	準会員	合計
2020年4月始	48	2410	243 (190)	177 (909口)	38	78	2994
入会(変更)	-1	63	25 (10)	3 (3口)	1	21	113
退会(死亡)		-132	-31 (0)	-2 (-28口)	-3	-78	-247
復会 資格喪失		-22	0	0 (0口)	0		-22
増減	-1	-91	-6	1 (-25口)	-2	-57	-156
2021年3月末	47	2319	237 (200)	178 (884口)	36	20	2837

*アカデミックパートナー登録研究室：24研究室

2. 機関誌，論文集，英語論文誌，研究会資料などの刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

編集委員会（編集長 佐藤真一）において，「映像情報メディア学会誌」第74巻第3号通巻830号～第75巻第2号通巻835号の計6号を，隔月（奇数月）1日に，年間計18,680部発行し，会員に配布しました。

今期の編集関係会議は，定例編集委員会として，企画委員会を7回，年次企画委員会を3回（コロナウイルス感染予防により，すべてリモート会議）開催いたしました。ニュース部門委員会は，昨年度の部門委員会の運営方針の見直しにより，記事選定等の審議はメール審議で行いました。海外文献部門委員会は，文献公開用のシステム運用・管理者（部門副委員長）の長期療養のため，公開作業が出来ないことから，部門委員会を一時休会し，文献調査等の作業を休止いたしました。次年度は作業を再開いたします。また企画委員会には，海外文献部門・ニュース部門の部門委員長も参加し，会誌部門・海外文献・ニュース部門の3部門間での情報共有を密にし，わかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

今年度特集は，1ないし2テーマで企画し，ページ数を厳守しつつ，タイムリーでホットな情報提供をいたしました。また学会創立70周年記念大会や研究会で発表される最新情報の提供を行うべく，特別企画や特別講演などから企画をピックアップし，解説記事の掲載を行いました。さらに記事内容の理解を深めるため，図のモノクロ掲載を推奨しつつ，作成費を考慮しながら，必要に応じ図のカラー掲載をいたしました。

①J-STAGEを介したオンラインジャーナルについて

会誌冊子体部分は，例年通り発行後2ヵ年を経た，2019年3月号（Vol.73，No.3）までを全文公開しました。

②「ベストアーティクル賞」および「ベスト動画コンテンツ優秀賞」の選定について

会誌1月号～11月号に掲載の記事を対象に，会誌アンケート結果の得票数を基に割り出した評点に

より、両賞ともに一次選考を行いました。選考により、ベストアーティクル賞は、各号ごとに上位3件程度（同得点の場合は考慮）の23件を、ベスト動画コンテンツ優秀賞は、上位3件を二次選考対象とし、企画委員会メンバーにより二次投票を行いました。その結果、ベストアーティクル賞は次の3件、ベスト動画コンテンツ優秀賞は次の1件を選定いたしました。受賞者にはオリジナル図書カードを進呈するとともに、会誌、ホームページ上で公表しました。

〔ベストアーティクル賞〕

- ・1月号<技術解説>「小惑星探査ミッション「はやぶさ2」における画像処理技術」
（JAXA 久保田孝氏）
- ・7月号<ベンチャービジネス>「ウェアラブルカメラで挑む、保守/建設現場の改革」
（インフィニテグラ 清水喜弘氏）
- ・7月号<技術解説>「フレキシブルディスプレイの開発動向」 （NHK 中田 充氏）
- ・11月号<特別寄稿>「ウイズ・アフターコロナ時代の映像情報メディア」
（東京大学 相澤清晴氏）

〔動画コンテンツ優秀賞〕

- ・3月号<特集A コネクティッドカーおよび自動運転>
「2-2 リアルタイムな交通情報の共有のためのダイナミックマップ技術」
（名古屋大学 渡辺陽介氏）

③海外文献部門委員会

今年度は、海外文献部門委員会は、文献公開用のシステム運用・管理者（部門副委員長）の長期療養のため、公開作業が出来ないことから、部門委員会を一時休会し、文献調査等の作業を休止いたしました。休止により、会誌に毎号掲載しておりました海外文献紹介も休載いたしました。次年度は作業を再開し、会誌への海外文献紹介掲載も再開いたします。

④ニュース部門委員会

今年度は、昨年度の部門委員会運営見直しにより、記事選定等の審議はメール審議で行いました。また毎年掲載の「国際放送機器展見聞記」は、2020年はコロナウイルス感染予防により、機器展がリモート開催となり、取材が充分に出来ないため、掲載は行わないことといたしました。

⑤その他の新しい試み

(a) <講座>「データセンターのインフラ技術」の連載を2021年3月号より開始しました。

(b) 「創立70周年記念特集」について

2020年4月1日で、創立70周年を迎えることから、「創立70周年記念特集」を2020年9月号に掲載いたしました。この10年間の活動を振り返るとともに80周年までのグランドチャレンジを考えることを趣旨とし、技術委員会委員長・幹事長、各研究委員会委員長調査理事、会誌編集長、論文委員会委員長・副委員長、テストチャート委員会に執筆いただきました。

(c) 「輝け！リケジョ」の終了について

2013年8月号から開始しました「輝け！リケジョ」（全53回）は、2021年3月号をもってシリーズを終了いたしました。その後継として新たに時代の要請を鑑み、文系・理系や性別の区別のない新しいシリーズ「きらり、中のヒト」を、2021年5月号から開始することといたしました。

(d) 今年度も総務省関連の記事を年2～3件を目途に企画しました。引き続き総務省関連記事の企画を行います。

(e) 選奨受賞関連記事の企画について

丹羽高柳賞<功績賞>、<業績賞>の受賞者および本年度フェローに認定された方からの「会員へのメッセージ」を9月号に掲載しました。今後も引き続き行います。

(f) 大会との連携を目的に、学会創立70周年記念大会企画講演会「映像情報メディアの発展を支え

るイメージセンサ」を,2021 年 11 月号<特集>で企画することといたしました。さらに,学会創立 70 周年記念講演会において,五藤佑典(サイバーエージェント)氏に講演いただいた「より高品質なメディアサービスをめざす A B E M A の技術進化」を,2021 年 11 月号<特別寄稿>で企画することといたしました。

(g) 「映像情報メディア年報 2021 シリーズ」について

10 の研究委員会・時限研究委員会により,2021 年 1 月号から連載企画を開始し,2022 年 5 月終了予定。なお,2021 年 3 月末で活動を終了する「スポーツ情報処理時限研究会」は,執筆は行わない。

(h) 学会 H P での全文公開について

アクセス制限なしで<知っておきたいキーワード><年報><輝け!リケジョ(2021 年 3 月終了)><研究開発ツール><話題;見聞記><報告><ベンチャービジネス>の各欄を,学会 H P に全文公開いたしました。今後も継続いたします。

(i) 研究委員会,支部との連携強化をはかるため,会誌企画は例年通り各研究委員会および各支部にテーマの提案をお願いしました。今年度は支部題目提案 4 件を会誌に掲載いたしました。今後も引き続き提案依頼を行います。また研究委員会および各支部から提案いただいた題目が会誌に掲載された際は,フォワード文に研究委員会および各支部名を明示することにしました。

⑥2020 年 5 月号～2021 年 3 月号の特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ マ	編数	頁数
2020. 5	特 集 A	5G	5	30
	特 集 B	新しい放送制作と送出の取り組み	7	38
2020. 7	特 集	メディアアート	5	26
2020. 9	特 集	学会創立 70 周年記念特集	16	75
2020.11	特 集 A	医療画像診断最前線と AI	5	25
	特 集 B	特殊撮像技術	5	26
2021. 1	特 集	VVC (Versatile Video Coding)	6	41
2021. 3	特 集 A	地上放送の高度化技術に関する最新動向	5	29
	特 集 B	空中ディスプレイ	7	33

⑦2020 年 5 月号～2021 年 3 月号の講座, てれび・さろん等のシリーズ連載テーマ

月 号	欄 名	連 載 テ マ	掲載回数	連載時期
2020.5,7,11 2021.1	講座	触覚技術入門 ～触覚インタフェースの可能性～	全 6 回	2020 年 3 月から継続 2021 年 1 月終了
2021.3	講座	データセンターのインフラ技術	全 6 回	2021 年 3 月から開始 2022 年 1 月終了予定
2021.1,3	映像情報メディア年報 2021 シリーズ		全 10 回	2021 年 1 月から開始 2022 年 5 月号終了予定
2020.5,7,11 2021.1,3	てれび・さろん	知っておきたいキーワード	全 140 回	2006 年 6 月から開始
2021.3		私の研究開発ツール	全 110 回	2007 年 7 月から開始
		名誉会員からのメッセージ 一次代を担う若者に向けて一	全 29 回	2008 年 8 月から開始
2021.3		標準化現場ノート	全 41 回	2010 年 4 月から開始

		メディアウォッチ	全 28 回	2012 年 1 月から開始
2020.5,9 2021.1,3		輝け！リケジョ（理系女子）	全 53 回	2013 年 8 月から開始 2021 年 3 月終了
2020.9,11		異業種での映像情報メディア	全 35 回	2015 年 1 月から開始
2021.3		私の日本滞在記	全 23 回	2015 年 11 月から開始
2020.5,7,9,11 2021.1,3		思い出の 1 枚	全 23 回	2017 年 1 月から開始
2020.5,7,9,11 2021.1,3		研究ハイライト	全 25 回	2017 年 3 月から開始
2020.5,7		ベンチャービジネス	全 15 回	2018 年 1 月から開始

⑧2020 年 5 月号～2021 年 3 月号の会誌各欄のページ数

欄 名	頁数	欄 名	頁数	欄 名	頁数
年頭インタビュー	9	話 題；見聞記	28	ベンチャービジネス	7
ふぉーかす	5	講 座	36	メディアウォッチ	0
お祝い文	0	年報シリーズ	35	報 告	34
追悼文	1	名誉会員からのメッセージ	0	ニュース	18
受賞者・役員紹介	11	私の研究開発ツール	4	海外文献収録	5
目 次	18	知っておきたいキーワード	18	学会からのお知らせ	46
特別寄稿	10	標準化現場ノート	5	学会だより	15
講 演	0	輝け！リケジョ（理系女子）	13	総目次	8
特集本文	322	異業種での映像情報メディア利用	13	論文目次	6
技術解説	49	私の日本滞在記	4	英語論文目次	4
研究動向	0	思い出の 1 枚	6	合 計	794
話 題	6	研究ハイライト	58		

注) 他に、「新刊図書」1冊、「技術資料」0頁、「広告」10.5頁、「メールニュース広告」7回配信。
「カタログ同封サービス」1件、「バナー広告」はなし。

(2) 論文関係

論文委員会（委員長 篠田浩一）において、「和文論文誌」第 74 巻第 3 号～第 75 巻第 2 号の計 6 号と、「ITE Transactions on Media Technology and Applications」を第 8 巻第 3,4 号、第 9 巻第 1,2 号の計 4 号を、下記のとおり J-STAGE を介したオンラインジャーナルとして公開しました。

今期の論文委員会は年 3 回の委員会開催に加えて、e-mail 等を活用して効率的な運営を致しました。

①編集委員メンバーの増強について

投稿論文の査読時に、分野によって適切な編集委員の方が見つからず、迅速な査読が難しくなるケースが発生しており、その改善のため和文誌・MTA の編集委員のご推薦について、3/2 技術委員会にて洗井編集理事より研究会委員長にお願いを頂きました。

②和文論文の編集作業のフロー改善について

査読・判定文をファイル添付形式としている和文誌の編集作業フローの改善を目的として、査読サイトの仕様を MTA と同様（査読システム上で査読・判定・採否通知を行う）とする検討を行いました。採否通知までの一連の流れ、新旧設定の併用の可否等を確認の上、変更を行うこととしました。

③2020 年度丹羽高柳賞論文賞候補論文の選定

和文・MTA 各 3 編の推薦文を起票し、委員会席上にて最終候補論文とすることを決定しました。推薦

文の最終確認を行った後に、選奨委員会に提出しました。

④論文誌掲載料の見直しについて

和文論文誌の掲載料見直しに関して、具体的な価格設定および恒久的な改訂 or 「70 周年記念キャンペーン」として期間を限定した掲載料の値下げとするかをまとめた改定案を作成の上、検討を続けることとしました。

⑤査読功労賞・論文編集功労賞の受賞条件について

2011 年からの毎年のデータを累積し、決められた件数に達する毎に表彰（既受賞者はゼロリセット）する規程の改定を行い、3/25 理事会で報告しました。

⑥オリエンテーションミーティングの開催について

「和文誌、MTA の現状とビジョン」、「特集号の企画立案（特に国内での学会開催）」、「査読システムの説明」などに関し、和文誌・MTA 両編集委員メンバーが一堂に会して共有を図るオリエンテーションミーティングを新体制発足後の 6 月を目途に開催することとしました。

⑥2020 年 5 月号～2021 年 3 月号の論文特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2020.11	論 文 特 集	ディスプレイー IDW ' 19 を中心にー	3	17
2021. 1	論 文 特 集	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文	[7] , 【3】	[48] , 【17】
2021. 3	論 文 特 集	映像表現とコンピュータグラフィックス ～映像表現・芸術科学フォーラム 2020 を中心に～	1, [2] , (1)	7, [18] , (4)

[] は動画付き論文, () は研究速報, [] は招待論文, 【 】 は招待フィールド論文

⑦2020 年 5 月号～2021 年 3 月号 オンラインジャーナルのページ数

欄 名	オンラインジャーナルの頁数(編数)
巻 頭 言 (特 集)	3 (3)
招 待 論 文	48 (7)
招待フィールド論文	17 (3)
論 文 (一 般)	29 (4)
(特 集)	24 (4)
動画付き論文 (一 般)	0 (0)
(特 集)	18 (2)
フィールド論文 (一 般)	22 (3)
(特 集)	0 (0)
研 究 速 報 (一 般)	7 (2)
(特 集)	4 (1)
動画付き研究速報 (一 般)	0 (0)
(特 集)	0 (0)
これすぽんでんす	0 (0)
合 計	172 (29)

⑧英語論文誌「ITE Transactions on Media Technology and Applications」特集テーマとページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2020. 7	Special Section	Media Engineering and Its Applications	4	35
2020.10	Special Section	IDW '19	7	49

2021. 1	Special Section	Advanced Multimedia Transmission Technology and Its Application	5 【1】	49 【11】
		ITE Awards Selection	【1】	【8】
2021. 4	Special Section	Advanced Image Sensor Technology	1 【2】	7 【14】

【 】内は Invited Paper

⑨2020 年 7 月号・10 月号, 2021 年 1 月号・4 月号

英語論文誌「ITE Transactions on on Media Technology and Applications」の ページ数

欄名	頁数(編数)
Foreword (Special Section)	5 (5)
Invited Paper (Special Section)	33 (4)
Paper (Special Section)	141 (17)
Paper (Regular Section)	127 (13)
合 計	336 (27)

(3) 大会・講習会・講演会論文集（予稿集）関係

・学会創立 70 周年記念大会講演予稿集（Web ダウンロード版および CD-R 版）発行

(4) 研究会資料（技術報告）関係

巻 号	発行年月日	発行部数	備 考
Vol. 44	2020 年		特になし
No. 12	5 月 21 日	150 部	
No. 13	" 5 月 27 日	110 部	"
No. 14	" 6 月 24 日	110 部	"
No. 15	" 7 月 18 日	120 部	"
No. 16	" 7 月 24 日	150 部	"
No. 17	" 7 月 30 日	120 部	"
No. 18	" 8 月 25 日	110 部	"
No. 19	" 8 月 28 日	130 部	"
No. 20	" 8 月 31 日	120 部	"
No. 21	" 9 月 5 日	110 部	"
No. 22	" 9 月 10 日	110 部	"
No. 23	" 9 月 18 日	120 部	"
No. 24	" 9 月 24 日	130 部	"
No. 25	" 9 月 28 日	100 部	"
No. 26	" 10 月 9 日	110 部	"
No. 27	" 10 月 13 日	120 部	"
No. 28	" 11 月 5 日	130 部	"
No. 29	" 11 月 13 日	120 部	"
No. 30	" 11 月 19 日	130 部	"
No. 31	" 11 月 20 日	120 部	"
No. 32	" 11 月 25 日	110 部	"
No. 33	" 11 月 26 日	100 部	"
No. 34	" 12 月 9 日	120 部	"
Vol. 45	2021 年		

No. 1	1月15日	130部	〃
No. 2	〃 1月21日	110部	〃
No. 3	〃 1月22日	120部	〃
No. 4	〃 2月11日	160部	〃
No. 5	〃 2月11日	140部	〃
No. 6	〃 2月20日	130部	〃
No. 7	〃 2月26日	100部	〃
No. 8	〃 3月 1日	110部	〃
No. 9	〃 3月 1日	110部	〃
No. 10	〃 3月 5日	140部	〃
No. 11	〃 3月19日	130部	〃

3. 調査・研究活動（定款 第4条（3））

（1）技術委員会

技術委員会（委員長 伊東 晋）は、今期3回オンライン開催し、本会の研究委員会・時限研究会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

今期は、コロナ禍を考慮し「優秀研究発表賞」（受賞者11名）は授賞式をとりやめ、表彰状、賞牌の郵送のみとしました。また、受賞者の顔写真と概要を会誌2021年3月号に掲載いたしました。

昨期に引き続き、新領域開拓や、多数の有料参加による大規模なシンポジウム開催を奨励するための投資的経費を設定し、申請に基づく運用を行いました。今期中に実施した施策はありませんでした。

今期から、研究会の参加費徴収を開始いたしました。支払手続きはオンライン処理となりました。

（2）研究委員会

次表に記載の9の研究委員会において、それぞれ研究会活動を推進いたしました。

今期はコロナ禍の影響により、開催数が昨期より10回減っており、また全てオンライン開催となりました。

今期は「技術報告」を34分冊およびCD-ROM1部を出版いたしました。

委 員 会 名	委員長名	開催数	海外	備 考
情報センシング研究委員会	秋 田 純 一	7（0）		全てオンライン
情報ディスプレイ研究委員会	木 村 宗 弘	4（0）		
マルチメディアストレージ研究委員会	町 田 賢 司	3（0）		
放送技術研究委員会	斎 藤 恭 一	8（0）		
ヒューマンインフォメーション研究委員会	永 井 岳 大	2（0）		
メディア工学研究委員会	新 井 啓 之	6（0）		
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	向 井 信 彦	4（0）		
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	樺 澤 哲	2※（0）		

開催数は中止（または延期）分を含まず。（ ）付数字は地方開催数。

※1回はハイブリッドにて開催

（3）時限研究会

当初東京オリンピック・パラリンピック開催が予定されていた2020年度までを期限として2016年に発足した下記時限研究委員会について、コロナ禍により大会が延期され、アスリートに接触できる機会も激減し、所掌分野の研究活動が大幅に停滞しており、当面の見通しも不透明であることから、今期をもって活動を終了することが決定いたしました。

委 員 会 名	委員長名	開催数	備 考
スポーツ情報処理時限研究委員会	渡 辺 裕	2 (0)	全てオンライン

4. 大会の開催（定款 第4条（4））

（1）年次大会

今期は当初東京オリンピック・パラリンピックが開催予定であり、例年8月下旬に開催している年次大会は開催時期が重なり、放送・通信事業関係者等の参加が難しくなることが予想されたため、開催を見送ることといたしました。（2019年6月度理事会で承認）

（2）学会創立70周年記念大会

記念大会実行委員会（委員長 斎藤英雄）において、次のとおり企画開催いたしました。

会 期 2020年12月22日（火）・23日（水）・24日（木）

会 場 オンライン（MS-Teams 使用）

一般講演 27セッション（142件）

企画講演 5セッション（29件）／フェロー記念講演：4件／招待講演：2件

デモ展示 1セッション（8社）※Web 動画配信

記念講演 1セッション（5件）

参加者数 502名

技術交流会 実施せず

学会創立70周年記念大会セッション、講演件数、座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	深層学習1	6	田良島周平（NTTコミュニケーションズ）	
2	深層学習2	6	丹野良介（NTTコミュニケーションズ）	
3	マルチメディアストレージ	4	船橋信彦（NHK）	
4	無線・光伝送＋フェロー記念講演	6	杉山賢二（成蹊大）	
5	センシング1	4	大竹 浩（ナノルクス）	
6	感性情報処理＋フェロー記念講演	6	新井啓之（日本工大）	
7	情報ディスプレイ	5	薄井武順（NHK）	
8	インタフェース・ロボット	7	金子敏充（東芝）	
9	放送現業	8	甲斐 創（日本テレビ）	
10	映像表現&CG1	6	岡市直人（NHK）	
11	コンピュータビジョン	6	塚谷俊介（NTT）	

12	放送方式 1	5	鈴木高幸（テレビ朝日）	
13	映像表現&CG 2	4	名手久貴（東京工芸大）	
14	メディア生成・光学解析	7	谷沢昭行（東芝）	
15	放送方式 2	6	松本卓三（古川電工）	
16	映像表現&CG	5	向井信彦（東京都市大）	
17	マルチモーダル解析・デプス／サーマル解析	6	井田 孝（東芝）	
18	ヒューマンインフォメーション 1	4	永井岳大（東工大）	
19	符号化・画像処理 1＋フェロー記念講演	4	望月貴裕（NHK）	
20	ヒューマンインフォメーション 2	4	永井岳大（東工大）	
21	センシング 2	5	堺 俊克（NHK）	
22	立体映像技術 1	6	掛谷英紀（筑波大）	
23	符号化・画像処理 2＋フェロー記念講演	4	河村 圭（KDDI 総合研）	
24	スポーツ情報処理	6	渡邊良亮（KDDI 総合研） 三上 弾（NTT）	
25	情報センシング 3	6	後藤正英（NHK）	
26	立体映像技術 2	5	高田英明（長崎大）	
27	メディア工学応用	7	切通恵介（NTTコミュニケーションズ）	
〔企画 1〕目と物体の間に存在する光学特性を変える光学デバイス		6	岡市直人（NHK） 石井紀彦（NHK）	
〔企画 2〕KIBME/ITE Joint Session ～ Broadcasting Technology and Media ～		8	Hiroki Takahashi (UEC) Jong- Il Park (Hanyang Univ.)	
〔企画 3〕映像情報メディアの発展を支えるイメージセンサ		5	秋田純一（金沢大） 大竹 浩（ナノルクス）	
〔企画 4〕アフターコロナにおけるローカル 5G がもたらすイノベーション		3	樺澤 哲（サンブリッジグローバルベンチャーズ）	
〔企画 5〕メディアエクスペリエンスに関する取り組み		7	藤井亜里砂（NHK）	
〔創立 70 周年記念講演会〕映像情報メディアのグランドチャレンジ		5	松田一朗（東京理科大）	

5. 国際会議・講演会の開催（定款 第4条（4））

①70周年記念大会企画セッション開催

「地上波放送高度化に関する日韓の現状と課題」セッションをK I B M E (The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers) からの講演者を交えて開催した。

会期 2020年12月22日

場所 オンライン開催

②第27回ディスプレイ国際ワークショップ (I D W 2 0 2 0)

会期 2020年12月9日～11日

場所 オンライン開催

③I C A I 2 0 2 0 実行委員会参加

ICAI2020(International Conference on Advanced Imaging)開催へ向けて実行委員会に参加し,8Kに関する企画セッション開催に向けて協力してきました.当初2020年11月の開催を予定していましたが,新型コロナ感染状況を鑑みて開催時期を1年延期し2021年10月開催となり,継続して実行委員会に参加いたしました。

6. 支部活動報告

(1) 北海道支部

①支部大会 (2020年5月29日配布, メール審議)

②役職会

第1回 (2020年5月29日配布, メール審議)

第2回 (2020年10月28日, オンライン開催@MS Teams)

第3回 (メール審議 2021年4月9日配布)

③令和2年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会

(2020年11月7日, オンライン開催@ZOOM)

講演件数: 一般講演 139件

参加者数: 278名

特別講演: なし

④技術セミナー2021 (2021年3月5日, オンライン開催@ZOOM)

テーマ: 「最新の映像技術の放送活用事例」

参加者: 59名

講演1 「AI 技術による番組制作支援とユニバーサルサービス」

金子浩之 (NHK放送技術研究所)

講演2 「ソニーIP Live プロダクションシステムがもたらす 新たなバリューと導入事例」

中尾 誉 (ソニービジネスソリューション (株))

(2) 東北支部

①2019年度通常大会 (2020年5月20日 ホテル法華倶楽部)

※コロナによる緊急事態宣言発令のため中止, 役員によるメール審議により審議事項 (案) を承認

②役職会

第1回幹事会 (2021年1月4日, メール審議)

※東北地区若手研究者研究発表会での表彰実施について

第2回幹事会 (2021年3月4日, メール審議)

※第74回東北地方技術報告会特別講演への共催について

第3回幹事会 (2021年3月12日, メール審議) ※支部役職任期途中交代 (秋田テレビ) について

第4回幹事会 (2021年4月6日, メール審議) ※支部役職任期途中交代東北総合通信局) について

③施設見学会 ※コロナ禍のため自粛

④後援団体として参加（2回）※コロナ禍で休止

1) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2020

2) サイエンス・デイ AWARD 2020 表彰「映像情報メディア学会東北支部賞」

（2020年7月19日 於、東北大学サイエンスキャンパスホール）

⑤電気関係学会東北支部連合大会（2020年8月27日 書面発表）

一般講演：発表件数 219 件

⑥映像情報メディア学会誌企画提案

2022年3月号＜技術解説＞欄にて仮題目「プラスチック光ファイバーを用いた新しい放送受信システム～VP0F システム～」の掲載決定

⑦2021年東北地区若手研究者研究発表会（共催 書面発表で開催）

（2021年3月5日，主催：東北地区若手研究者発表会「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

（3）北陸支部

①2020年度北陸支部大会（2020年5月18日～5月22日，メール審議）

②中部放送技術フォーラム

（2020年5月20日～21日，オンライン開催 ※コロナ禍の影響で規模縮小のため共催を中止）

③2020年度電気関係学会北陸支部連合大会（2020年9月13日，オンライン開催）

④2020年度映像情報メディア学会北陸支部企画講演会（2021年2月19日，オンライン開催）

演題1：北陸地区におけるサイバーセキュリティへの取り組み

講師1：丹 康雄（北陸先端科学技術大学院大学）

演題2：冬季雷のメカニズム その被害と最新対策

講師2：吉井 源治（音羽電機工業株式会社）

参加者：59 名

⑤北陸地区電気・電子・情報関係学科の成績優秀学生の表彰（2021年3月1日）

11校11名（賞状と記念品の発送）

（4）東海支部

①支部大会（2020年5月27日，資料メール配布）

②電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（2020年9月3日～4日，オンライン）

講演参加数：347 名，一般参加数：229 名

③支部第1回企画講演会「IP・ソフト化の動向と NEC の取り組み」（2021年2月17日，オンライン）

参加者数：74 名

④2020年度助成実績「東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会」（2020年8月1日，オンライン）

参加者数：190 名

（5）関西支部

①電気関係学会関西連合大会（2020年11月14日～15日，於、立命館大学 びわこ・くさつキャンパス）

一般講演：14 部門 150 件/招待講演 22 件

本支部担当講演：G12 画像処理技術 一般講演 9 件,招待講演 1 件

G13 映像メディア関連技術 一般講演 2 件,招待講演 1 件

参加人数：259 名

【特別講演】

講演題目：「重電分野日本女性初の IEEE/Fellow への道」

講演者：川上紀子

（東芝三菱電機産業システム株式会社パワーエレクトロニクスシステム事業部 技監）

参加人数：60 名

- ②専門講習会 1 (2020 年 10 月 23 日, zoom 開催)
 テーマ:「ローカル 5 Gの新たなビジネス展開の可能性」
 講演件数:6 件 参加者数:23 名(会員 15 名 非会員 8 名 学生会員 0 名 学生非会員 0 名)
- ③専門講習会 2 (2020 年 12 月 10 日, zoom 開催)
 テーマ:「テレビの未来を考える」
 講演件数:6 件 参加者数:22 名(会員 13 名 非会員 9 名 学生会員 0 名 学生非会員 0 名)
- ④専門講習会 3 (2020 年 2 月 22 日, zoom 開催)
 テーマ:「AI×画像・映像処理技術の最新動向」
 講演件数:7 件 参加者数:35 名(会員 24 名 非会 11 名 学生会員 0 名 学生非会員 0 名)
- ⑤学生員のための講演会 (2020 年 10 月 24 日～12 月 23 日)
 開催回数:6 回
 参加者数:601 名
- ⑥役職会 (6 回)
 第 1 回役職会 (2020 年 4 月 17 日, メール審議)
 第 2 回役職会 (2020 年 6 月 22 日, メール審議)
 第 3 回役職会 (2020 年 9 月 14 日, zoom 開催)
 第 4 回役職会 (2020 年 12 月 17 日, zoom 開催)
 第 5 回役職会 (2021 年 3 月 12 日, zoom 開催)

(6) 中国支部

- ①2020 年度中国支部 支部大会 (2020 年 4 月 8 日～22 日, メール審議)
- ②2020 年度(第 71 回)*電気・情報関連学会中国支部連合大会第 1 回大会委員会
 (2020 年 5 月 11 日, Teams オンライン会議)
- ③2020 年度(第 71 回)*電気・情報関連学会中国支部連合大会第 2 回大会委員会
 (2019 年 6 月 29 日, Teams オンライン会議)
- ④2020 年度(第 71 回)*電気・情報関連学会中国支部連合大会プログラム編成委員会
 (2020 年 9 月 10 日, Teams オンライン会議)
- ⑤2020 年度(第 71 回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会
 (2020 年 10 月 24 日, Zoom オンライン開催(岡山県立大学))
 会場(Zoom)数:24, 部門数:27, セッション数:40, 講演数:205 件
 映像情報メディア学会から 2 件報告(うち 1 件, 電気学会優秀論文発表賞受賞)
- ⑥2020 年度中国支部役員・運営委員会 (2020 年 12 月 3 日～17 日, メール審議)
- ⑦2020 年度(第 71 回)*電気・情報関連学会中国支部連合大会第 3 回大会委員会
 (2020 年 12 月 16 日, Teams オンライン会議)
- ⑧2021 年度中国支部 支部役職者選挙 (2021 年 2 月 20 日～3 月 19 日, Web 投票)

(7) 四国支部

- ①四国支部通常支部大会 (2020 年 5 月 25 日～6 月上旬, 書面公開による審議)
- ②四国支部役職会 3 回
 (2020 年 5 月 12 日～19 日, 書面審議,
 2020 年 9 月 30 日～10 月 9 日および 2021 年 1 月 21 日～1 月 31 日, メール審議)
- ③電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会 (2020 年 9 月 26, 現地開催取り止め 論文集発行のみ)
 報告件数 168 件
 委員会 3 回
 (2020 年 6 月 3 日 オンライン, 2020 年 8 月 6 日 メール審議, 2020 年 12 月 7 日 オンライン)
- ④四国コンテンツ映像フェスタ 2020 (協賛 審査員協力/副賞提供)

応募作品事前審査（2020 年 11 月 25 日～12 月 11 日）
 審査会・表彰式（2021 年 1 月 29 日，オンライン開催）

（8）九州支部

- ①支部通常大会（2020 年 6 月，メール審議）
- ②電気・情報関係学会九州支部連合大会（2020 年 9 月 26 日～27 日，オンライン開催）
講演件数：350 件（前年度 508 件）
- ③放送技術研究会（本部と共催）
（2020 年 1 月 22 日，オンライン開催）
学生および若手発表：8 件
- ④九州支部主催講演会 ※新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言のため開催を見送り
- ⑤役職会（6 回）
第 1 回役職会 ※新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言のため開催を見送り
第 2 回役職会（2020 年 6 月，メール審議）※2020 年度電気・情報関係学会九州支部連合大会
プログラム編集について
第 3 回役職会（2020 年 7 月，メール審議）※学会誌記事題目・企画提案について
第 4 回役職会（2020 年 12 月，メール審議）※2021 年度役員改選について
第 5 回役職会（2021 年 1 月，メール審議）※放送技術研究会について
第 6 回役職会（2021 年 3 月，メール審議）※2020 年度支部講演会について
第 7 回役職会（2021 年 3 月，メール審議）※2021 年度支部通常大会について

7. 支部別会員数（2021 年 3 月 31 日現在）

支部名	正会員	学生会員	合計	維持会員
北海道支部	59	1	60	5（27口）
東北支部	65	0	65	16（34口）
北陸支部	49	0	49	4（8口）
東海支部	133	1	134	14（35口）
関西支部	329	9	338	10（89口）
中国支部	63	0	63	14（24口）
支部合計	824	11	845	90（262口）

注：正会員には名誉会員を含める

注：学生会員にはアカデミックパートナー学生を含まない

8. 図書の企画・刊行（定款 第4条（2）項）

編集委員会（編集長 佐藤真一）において，会誌連載講座，会誌連載シリーズなどの単行本化を検討しました。今年度も，体系的（冊子）にはせず，このままの形態で学会HPにて公開することにしました。

9. ITEテストチャートの作成・頒布（定款 第4条（2））

ITEテストチャート委員会（委員長 井口和久）を中心に以下の事業を展開しました。

- （1）超高精細・広色域 HDR 版標準動画像（C シリーズ）は頒布開始後引き合いが続いています。さらに，スタジオにて HDR 効果を際立たせた照明による撮影済み素材の頒布が未完となっていました，年度内の頒布開始には至りませんでした。
- （2）3次元マルチチャネル音響標準音源小委員会（主査 小野一穂），ARIB と共同で 3次元マルチチャネル音響標準音源 B シリーズの制作を検討してまいりましたが，2020 年度は具体的な制作方針の決定には至りませんでした。

- (3) ハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像, 超高精細・広色域標準動画画像Aシリーズ/Bシリーズについては引き合いが続いています。超高精細・広色域 HDR 版標準動画画像(Cシリーズ)は頒布開始後、国内のみならず海外の大学・研究機関・メーカーから引き合いがありました。

10. 丹羽高柳賞, 技術振興賞, 鈴木記念奨励賞, 映像情報メディア未来賞の選考と贈呈(定款 第4条(5))

[各賞受賞者氏名/敬称略]

<丹羽高柳賞>

(1) 功績賞

- ①受賞者：相澤清晴（東京大学大学院 情報理工学系研究科）
功 績：マルチメディア分野における先駆的な研究と実用化

- ②受賞者：江藤剛治（大阪大学大学院 工学研究科）
功 績：超高速イメージセンサの開発

(2) 業績賞

- ①受賞者：高田政幸（NHK）
業 績：新4K8K衛星放送の実用化と地上放送高度化方式における研究開発推進への貢献
- ②受賞者：池田敏之（NEC）
業 績：BS4K放送用エンコーダの開発・実用化

(3) 論文賞

- ①受賞者：宮崎大希・橋本直己（電気通信大学）
題 目：動的Projection Mappingのための非剛体形状推定に基づくマーカ検出
- ②受賞者：Kyohei Unno（KDDI Research /Tokyo University of Science）, Yusuke Kameda, Ichiro Matsuda, Susumu Itoh（Tokyo University of Science）, Sei Naito（KDDI Research）
題 目：Lossless Color Image Coding Based on Probability Model Optimization Utilizing Example Search and Adaptive Prediction
- ③受賞者：Tomoki Haruyama, Sho Takahashi, Takahiro Ogawa, Miki Haseyama（Hokkaido University）
題 目：Multimodal Important Scene Detection in Far-view Soccer Videos Based on Single Deep Neural Architecture

<鈴木記念奨励賞>

- ①受賞者：菊地幸大（NHK）
題 目：3板式8Kカメラにおける像面位相差検出方式オートフォーカスシステムの開発（70記大33E-1）
- ②受賞者：小川広大（東京理科大）
題 目：符号化歪除去のためのSSIMを最大化するポストフィルタの検討（70記大33C-3）
- ③受賞者：小磯諒太（KDDI総合研）
題 目：複数台カメラシステムにおけるレンズ歪自動補正に関する検討（70記大21E-4）

<技術振興賞>

(1) 進歩開発賞（現場運用部門）

- ①受賞者：河村浩司・西田紘基（TBSテレビ）
題 目：ファイルベースシステム向け社外プレビュー用共通API「千里眼」の開発
- ②受賞者：安田 元・胡子裕之（テレビ朝日）

題 目：A I リアルタイム文字マスクシステムの開発
(2) 進歩開発賞(研究開発部門)

①受賞者：アスリートデジタイズ技術開発チーム
代表：相原慎吾・鈴木達也・佐藤卓也(富士通研究所)

題 目：3次元センシング技術による体操の採点支援技術の開発と実用化

②受賞者：VPS PF 開発チーム
Suwichaya Suwanwimolkul・小森田賢史・徐 建鋒(KDDI 総合研)

題 目：画像に基づく高精度位置推定プラットフォーム(VPS PF)の開発
(3) コンテンツ技術賞

①受賞者：AI キャッチャー開発チーム(日本テレビ, データスタジアム)
代表：篠田貴之(日本テレビ)

コンテンツ名：プロ野球中継における AI キャッチャーの開発と運用

②受賞者：TBS テレビ もじこラボ 代表：松本隆矢・小林祥子(TBS テレビ)
コンテンツ名：”ひとり”で”正確な”生放送字幕を付与! 『もじば』～地上波ニュース番組へ「音声認識 AI とタッチパネル」の活用～

③受賞者：99 人の壁リモート収録システムプロジェクト
上田容一郎・若狭正生・安部文紀(フジテレビ)
コンテンツ名：「超逆境クイズバトル!! 99 人の壁」リモート収録システムの開発

<映像情報メディア未来賞>

①受賞者：宮川 幹司(NHK)
題 目：高移動度塗布型酸化物薄膜トランジスタの開発

1 1. 名誉会員の推薦(定款 第4条(8))

本年度、名誉会員候補者の推薦がなかったため、第 67 回定時社員総会への名誉会員推挙は行わないことといたしました。

1 2. フェロー認定証の贈呈(定款 第4条(5))

フェロー選定委員会(委員長 斎藤英雄)において、慎重に検討しました結果、次の5名の方々にフェローの称号を授与することといたしました。

<フェロー認定者/五十音順>

高村誠之(NTT), 内藤 整(KDDI 総合研究所), 濱住啓之(東京工業高等専門学校), 前田幹夫(工学院大学), 吉田俊之(福井大学)

1 3. 社会貢献活動(定款 第4条(7))

1) 学会創立 70 周年記念講演会(学会創立 70 周年記念大会併催)

日時：12 月 23 日(水) 14:00～17:15

会場：オンライン開催

内容：映像情報メディアのグランドチャレンジ

(記念講演会1)「すべての人に移動の自由を ～ トヨタの自動運転技術開発の取り組み ～」

鯉渕 健(トヨタ・リサーチ・インスティテュート・アドバンスド・デベロップメント)

(記念講演会2)「より高品質なメディアサービスを目指す ABEMA の技術進化」

五藤佑典(サイバーエージェント)

(報告)「研究委員会の今後 10 年間のグランドチャレンジ」(3 研究会より)」

①情報センシング研究委員会 秋田純一委員長(金沢大学)

②放送技術研究委員会 村田英一副委員長(京都大学)

③メディア工学研究委員会 田良島周平幹事(NTT コミュニケーションズ)

石井大祐委員(富士通研究所)

2) 2019 年度各賞受賞企業によるデモ展示(学会創立 70 周年記念大会併催)

日時: 2020 年 12 月 22 日(火)~24 日(金)

会場: 動画公開

(1) クラウドを活用した「総合コンテンツ管理システム」の構築

総合コンテンツ管理システム検討プロジェクト 井村紀彦・伊東北斗(フジテレビ)

(2) ハイブリッドキャスト専用サーバーの開発

栗山和久・大山 悟(関西テレビ), 山本道雄(関西テレビソフトウェア)

(3) WEB アプリ「もじこ」~音声認識 AI による文字起こしエディタ

TBS もじこラボ 代者: 小林祥子・稲川太郎(TBS テレビ)

(4) FM 同期放送用 SFN フィールドアナライザの開発と実用化

SFN フィールドアナライザ開発チーム(山口放送, 日本通信機)

(5) 迅速・正確な報道を支援する字起こしシステムの開発

音声認識グループ 代者: 三島 剛, 佐藤庄衛(NHK, NHK-ES)

(6) AI と Video OCR によるリアルタイム日本語変換システム

AI Video OCR Project(テレビ朝日, AI inside)

(7) 視点追従インテグラル 3D ディスプレイの開発

視点追従インテグラル 3D 開発グループ(NHK)

(8) テレビ映像と同期した自由視点 AR コンテンツのリアルタイム伝送技術の開発

河村侑輝(NHK)

14. 支部長会議(定款 第4条(8))

開催日: 2021 年 5 月 10 日(月)

会 場: リモート会議

議 題: (1)2020 年度支部活動報告

(2)学会活動全般に関する意見交換

15. 通常総会の開催(定款 第4条(8))

(1) 第 66 回定時社員総会

会期 2020 年 5 月 29 日

会場 機械振興会館 + オンライン

(2) 第 67 回定時社員総会の準備

2021 年 5 月 28 日に予定し, その準備を行いました.

16. 2020 年度理事会の開催(定款 第4条(8))

本年度の定例理事会は新型コロナウイルス感染予防のためオンサイト開催を取りやめ, リモート開催 6 回, メール審議 2 回により計 8 回開催いたしました. このうち, 代表代議員出席 6 回, 支部長出席 6 回にて開催し, 学会の事業活動などを積極的に推進するための検討を行いました.

以上

2020年度決算報告書

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

貸借対照表

2021年 3月31日現在

一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	45,552,949	37,246,325	8,306,624
未収会費	1,955,500	2,349,000	-393,500
未収金	5,276,501	3,394,715	1,881,786
棚卸資産	11,623,095	11,728,614	-105,519
貯蔵品	241,500	135,000	106,500
有価証券	5,000,000	5,000,000	0
立替金	26,213	26,213	0
仮払金	400,010	417,902	-17,892
貸倒引当金	-85,000	-65,100	-19,900
流動資産合計	69,990,768	60,232,669	9,758,099
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	12,515,414	12,515,414	0
選奨普基金	16,130,806	16,326,850	-196,044
啓発普及基金	14,000,000	14,000,000	0
研究・特別企画基金	26,597,768	26,597,768	0
記念事業特定資産	35,850,294	36,196,195	-345,901
会誌活性化等特定資産	31,871,500	33,871,500	-2,000,000
事務局設備特定資産	860,310	860,310	0
鈴木記念賞特定金	1,755,175	1,794,511	-39,336
発展事業基金	6,988,064	6,519,158	468,906
特定資産合計	146,569,331	148,681,706	-2,112,375
(3) その他固定資産			
ソフトウェア工ア	316,695	689,486	-372,791
什器備品	1	1	0
保証金	1,714,800	1,714,800	0
その他固定資産合計	2,031,496	2,404,287	-372,791
固定資産合計	151,600,827	154,085,993	-2,485,166
資産合計	221,591,595	214,318,662	7,272,933
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	646,515	779,607	-133,092
前受金	34,100	0	34,100
前受会費	868,100	788,500	79,600
預り金	302,068	413,268	-111,200
仮受金	0	2,000	-2,000
賞与引当金	2,578,665	2,566,070	12,595
未払法人税等	70,000	489,100	-419,100
未払消費税等	154,000	416,200	-262,200
流動負債合計	4,653,448	5,454,745	-801,297
2. 固定負債			
退職給付引当金	16,531,344	14,987,448	1,543,896
固定負債合計	16,531,344	14,987,448	1,543,896
負債合計	21,184,792	20,442,193	742,599
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
正味財産合計	200,406,803	193,876,469	6,530,334
負債及び正味財産合計	221,591,595	214,318,662	7,272,933

貸借対照表内訳表

2021年 3月31日現在

一般社団法人映像情報メディア学会

科 目	実施事業			
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	-84,704,810	-13,501,824	-1,270,864	-3,790,101
未収会費	0	0	0	0
未収金	1,788,766	358,250	0	0
棚卸資産	0	0	0	0
貯蔵品	241,500	0	0	0
有価証券	0	0	0	0
立替金	0	0	0	0
仮払金	0	0	0	0
他会計へ振出	19,737,306	295,588	0	553,475
貸倒引当金	0	0	0	0
流動資産合計	-62,937,238	-12,847,986	-1,270,864	-3,236,626
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
定期預金	0	0	0	0
基本財産合計	0	0	0	0
(2) 特定資産				
退職給付引当資産	0	0	0	0
選奨基金	-15,000,000	0	0	31,130,806
啓発普及基金	0	0	0	0
研究・特別企画基金	0	26,597,768	0	0
記念事業特定資産	0	0	0	0
会誌活性化等特定資産	31,871,500	0	0	0
事務局設備特定資産	0	0	0	0
鈴木記念賞特定金	0	0	0	3,669,925
発展事業基金	0	0	0	0
特定資産合計	16,871,500	26,597,768	0	34,800,731
(3) その他固定資産				
ソフトウエア	-81,576	0	0	0
什器備品	0	0	0	0
保証金	0	0	0	0
その他固定資産合計	-81,576	0	0	0
固定資産合計	16,789,924	26,597,768	0	34,800,731
資産合計	-46,147,314	13,749,782	-1,270,864	31,564,105
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	-120,208	190,594	0	5,973
前受金	34,100	0	0	0
前受会費	0	0	0	0
預り金	2,450	4,980	0	0
賞与引当金	167,460	24,016	0	42,029
未払法人税等	0	0	0	0
他会計より繰入	148,318,869	56,634,362	1,137	49,536,265
未払消費税等	0	0	0	0
流動負債合計	148,402,671	56,853,952	1,137	49,584,267
2. 固定負債				
退職給付引当金	-1,508,478	958,406	0	1,095,038
固定負債合計	-1,508,478	958,406	0	1,095,038
負債合計	146,894,193	57,812,358	1,137	50,679,305
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
正味財産合計	-193,041,507	-44,062,576	-1,272,001	-19,115,200
負債及び正味財産合計	-46,147,314	13,749,782	-1,270,864	31,564,105

		その他会計(収)				
共通	小 計	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係	会誌頒布	会誌50CD-ROM
31,783,107	-71,484,492	10,307,592	546,398	100,485,617	12,768,511	29,952
0	0	0	0	0	0	0
0	2,147,016	1,169,440	0	1,624,207	22,778	0
0	0	0	0	10,854,810	0	768,285
0	241,500	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	20,586,369	17,198,850	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
31,783,107	-48,509,607	28,675,882	546,398	112,964,634	12,791,289	798,237
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	16,130,806	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	26,597,768	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	31,871,500	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	1,755,175	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	76,355,249	0	0	0	0	0
0	-81,576	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	-81,576	0	0	0	0	0
-1,914,750	76,273,673	0	0	0	0	0
29,868,357	27,764,066	28,675,882	546,398	112,964,634	12,791,289	798,237
0	76,359	75,359	0	137,638	0	0
0	34,100	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	7,430	0	0	0	0	0
0	233,505	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
31,152,627	285,643,260	-623,241	0	20,210	3,146,966	0
47,740	47,740	0	0	0	0	0
31,200,367	286,042,394	-547,882	0	157,848	3,146,966	0
0	544,966	1,279,002	0	0	0	0
0	544,966	1,279,002	0	0	0	0
31,200,367	286,587,360	731,120	0	157,848	3,146,966	0
-1,332,010	-258,823,294	27,944,762	546,398	112,806,786	9,644,323	798,237
29,868,357	27,764,066	28,675,882	546,398	112,964,634	12,791,289	798,237

[illegible]

その他会計(公)

国際講演会	講演会	講演会(支部)	連合大会(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)
261,224	260,784	-2,711,543	-4,002,955	1,491,912	-901,292	-751,806
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	-4,370	0	4,370	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
261,224	256,414	-2,711,543	-3,998,585	1,491,912	-901,292	-751,806
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
261,224	256,414	-2,711,543	-3,998,585	1,491,912	-901,292	-751,806
0	0	0	18,854	40,110	0	145,860
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	4,548	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
90	60,942	0	-4,370	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
90	60,942	0	14,484	44,658	0	145,860
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
90	60,942	0	14,484	44,658	0	145,860
261,134	195,472	-2,711,543	-4,013,069	1,447,254	-901,292	-897,666
261,224	256,414	-2,711,543	-3,998,585	1,491,912	-901,292	-751,806

				法人会計		
年次大会(支部)	科学博物館展示	共通	小 計	法人会計	法人会計(支部)	小 計
-99,420	-206,954	-8,106,320	7,451,441	18,126,486	11,815,418	29,941,904
0	0	0	0	1,955,500	0	1,955,500
0	0	0	313,060	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	5,000,000	0	5,000,000
0	0	0	0	26,213	0	26,213
0	0	0	0	400,010	0	400,010
0	0	2,879,401	2,914,858	161,020,983	0	161,020,983
0	0	0	0	-4,800	0	-4,800
0	0	0	0	-15,000	0	-15,000
-99,420	-206,954	-5,226,919	10,679,359	186,509,392	11,815,418	198,324,810
0	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
0	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
0	0	0	0	12,515,414	0	12,515,414
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	14,000,000	0	14,000,000
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	35,850,294	0	35,850,294
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	860,310	0	860,310
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	6,988,064	0	6,988,064
0	0	0	0	70,214,082	0	70,214,082
0	0	0	0	398,271	0	398,271
0	0	0	0	1	0	1
0	0	0	0	1,714,800	0	1,714,800
0	0	0	0	2,113,072	0	2,113,072
0	0	0	0	75,327,154	0	75,327,154
-99,420	-206,954	-5,226,919	10,679,359	261,836,546	11,815,418	273,651,964
0	0	0	204,824	130,115	22,220	152,335
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	868,100	0	868,100
0	0	0	4,548	290,090	0	290,090
0	0	25,725	25,725	1,709,910	0	1,709,910
0	0	0	0	70,000	0	70,000
0	720	23,639,593	22,764,677	-146,570,333	4,370	-146,565,963
0	0	7,700	7,700	0	0	0
0	720	23,673,018	23,007,474	-143,502,118	26,590	-143,475,528
0	0	-228,146	-228,146	11,219,017	0	11,219,017
0	0	-228,146	-228,146	11,219,017	0	11,219,017
0	720	23,444,872	22,779,328	-132,283,101	26,590	-132,256,511
-99,420	-207,674	-28,671,791	-12,099,969	394,119,647	11,788,828	405,908,475
-99,420	-206,954	-5,226,919	10,679,359	261,836,546	11,815,418	273,651,964

(単位：円)

内部消去		合 計
一般事業	小 計	
0	0	45,552,949
0	0	1,955,500
0	0	5,276,501
0	0	11,623,095
0	0	241,500
0	0	5,000,000
0	0	26,213
0	0	400,010
-203,155,729	-203,155,729	0
0	0	0
0	0	-85,000
-203,155,729	-203,155,729	69,990,768
0	0	3,000,000
0	0	3,000,000
0	0	12,515,414
0	0	16,130,806
0	0	14,000,000
0	0	26,597,768
0	0	35,850,294
0	0	31,871,500
0	0	860,310
0	0	1,755,175
0	0	6,988,064
0	0	146,569,331
0	0	316,695
0	0	1
0	0	1,714,800
0	0	2,031,496
0	0	151,600,827
-203,155,729	-203,155,729	221,591,595
0	0	646,515
0	0	34,100
0	0	868,100
0	0	302,068
0	0	2,578,665
0	0	70,000
-203,155,729	-203,155,729	0
0	0	154,000
-203,155,729	-203,155,729	4,653,448
0	0	16,531,344
0	0	16,531,344
-203,155,729	-203,155,729	21,184,792
0	0	200,406,803
-203,155,729	-203,155,729	221,591,595

正味財産増減計算書

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

一般社団法人映像情報マイ学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	47,100	38,857	8,243
基本財産受取利	47,100	38,857	8,243
特定資産運用益	471,000	961,332	-490,332
特定資産受取利	471,000	961,332	-490,332
受取入金	23,500	28,500	-5,000
受取入金	23,500	28,500	-5,000
受取会費	50,877,400	52,710,600	-1,833,200
正学学生会費	26,582,400	28,048,100	-1,465,700
維持学生会費	22,575,000	22,862,500	-287,500
特殊学生会費	760,000	840,000	-80,000
7カテゴリー	960,000	960,000	0
事業収益	23,906,761	36,842,693	-12,935,932
会誌関係収入	5,201,253	5,603,682	-402,429
会誌頒布収入	859,894	899,743	-39,849
年次大会収入	0	2,817,770	-2,817,770
冬季大会収入	2,801,100	1,590,300	1,210,800
講習会収入	477,500	877,500	-400,000
講演研究会収入	1,237,246	0	1,237,246
講演研究会収入	0	10,000	-10,000
技術報告収入	5,754,325	6,949,625	-1,195,300
図書関係収入	0	22,680	-22,680
テスト収入	7,575,443	18,071,393	-10,495,950
受取補助金等	4,300,000	0	4,300,000
受取国庫補助金	4,300,000	0	4,300,000
受取寄附金	495,600	473,000	22,600
発展事業寄付金	495,600	473,000	22,600
雑収益	5,210,847	2,766,971	2,443,876
バックナンバー収入	327,900	104,433	223,467
受取利息	140,024	471	139,553
雑合大会繰入金	4,255,796	2,225,273	2,030,523
連合大会繰入金	335,767	273,930	61,837
関係覧金料	151,360	162,864	-11,504
経常収益計	85,332,208	93,821,953	-8,489,745
(2) 経常費用			
事業費	51,597,821	81,366,669	-29,768,848
給料手当	20,568,362	21,981,376	-1,413,014
派遣賃金	409,878	855,480	-445,602
退職給付費用	1,082,923	20,193,944	-19,111,021
福利厚生費	2,814,819	3,202,272	-387,453
旅費	1,246	360,851	-359,605
通信費	2,858,721	3,466,790	-608,069
消耗什器備品費	105,519	0	105,519
消耗品費	842,010	1,284,371	-442,361
修繕費	260,880	290,104	-29,224
印刷製本費	9,633,943	13,285,837	-3,651,894
賃借料	4,399,572	5,263,354	-863,782
支払リース料	560,736	524,783	35,953
支払謝礼金	453,957	758,719	-304,762
租税公課	658,200	1,014,153	-355,953
会費	45,066	957,619	-912,553
支払助成金	771,935	931,936	-160,001
支払助成金	50,000	99,735	-49,735
支払宣伝費	311,189	296,639	14,550
委託書	4,628,488	4,971,346	-342,858
図書費	807,444	848,054	-40,610
雑費	132,941	160,214	-27,273
減価償却費	0	419,100	-419,100
管 理 費	199,992	199,992	0
給料手当	26,227,158	23,148,085	3,079,073
派遣賃金	8,755,426	9,356,912	-601,486
派遣賃金	296,796	428,370	-131,574
退職給付費用	460,973	517,899	-56,926

福	利	厚	生	費	1,220,043	1,223,945	-3,902
旅	費	交	通	費	3,526	348,756	-345,230
通	信	運	搬	費	216,442	113,571	102,871
消	耗		品	費	459,559	150,364	309,195
印	刷	製	本	費	5,940	0	5,940
賃		借		料	1,503,830	1,521,086	-17,256
支	払	り	一	ス	324,648	303,825	20,823
諸		会		費	150,721	154,504	-3,783
租	税	公		課	140,457	111,066	29,391
会		議		費	159,060	884,521	-725,461
支	払	負	担	金	0	50,857	-50,857
委		託		費	4,910,919	4,868,602	42,317
雑				費	146,231	152,838	-6,607
W	e	b	一	I	2,078,301	1,965,382	112,919
会	員	管	理	費	478,892	674,445	-195,553
発	展	事	業	資	26,694	78,342	-51,648
補	助	金	支	出	4,300,000	0	4,300,000
70周年記念事業					345,901	0	345,901
法	人	税		等	70,000	70,000	0
減	価	償	却	費	172,799	172,800	-1
経常費用計					77,824,979	104,514,754	-26,689,775
評価損益等調整前当期経常増減額					7,507,229	-10,692,801	18,200,030
評価損益等計					0	0	0
当期経常増減額					7,507,229	-10,692,801	18,200,030
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
償	却	債	権	取	36,000	0	36,000
貸	倒	引	当	金	65,100	59,100	6,000
退	職	給	付	取	0	18,741,000	-18,741,000
経常外収益計					101,100	18,800,100	-18,699,000
(2) 経常外費用							
貸	倒	引	当	金	85,000	65,100	19,900
貸		倒		損	980,400	1,107,400	-127,000
賞	与	引	当	繰	12,595	5,800	6,795
経常外費用計					1,077,995	1,178,300	-100,305
当期経常外増減額					-976,895	17,621,800	-18,598,695
当期一般正味財産増減額					6,530,334	6,928,999	-398,665
一般正味財産期首残高					193,876,469	186,947,470	6,928,999
一般正味財産期末残高					200,406,803	193,876,469	6,530,334
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額					0	0	0
指定正味財産期首残高					0	0	0
指定正味財産期末残高					0	0	0
III 正味財産期末残高					200,406,803	193,876,469	6,530,334

正味財産増減計算書内訳表

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

一般社団法人映像情報バ`ィ7学会

科 目	実施事業						技術報告関係	図書関係	テストチャート関係
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール	共通	小 計			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取入金会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
正学会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
維持会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別維持会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バ`ィ7ミッドナイト	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業収益	5,201,253	1,237,246	0	0	0	6,438,499	5,754,325	0	7,575,443
会誌関係係収	5,201,253	0	0	0	0	5,201,253	0	0	0
会誌頒布収	0	0	0	0	0	0	0	0	0
冬季大会収	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講習大会収	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究会収	0	1,237,246	0	0	0	1,237,246	0	0	0
技術報告収	0	0	0	0	0	0	5,754,325	0	0
テストチャート収	0	0	0	0	0	0	0	7,575,443	0
本部等補助金収	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発展事業寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収	572,107	533,950	0	161,172	0	1,267,229	464,840	0	0
バックナンバー収	0	0	0	0	0	0	319,200	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収	566,387	533,950	0	161,172	0	1,261,509	0	0	0
支部繰越金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合大会繰入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係	5,720	0	0	0	0	5,720	145,640	0	0
経常収益計	5,773,360	1,771,196	0	161,172	0	7,705,728	6,219,165	0	7,575,443
(2) 経常費用									
事業費	21,221,974	3,096,490	158,528	2,094,234	78,134	26,649,360	2,272,362	0	802,017
給料手当	4,012,121	609,232	0	1,066,826	0	5,688,179	0	0	0
派遣賃金	338,868	28,000	0	0	0	366,868	0	0	0
退職給付費用	211,238	32,076	0	56,168	0	299,482	0	0	0
福利厚生費	634,713	96,710	0	168,719	0	900,142	0	0	0
旅費	0	670	0	0	0	670	0	0	0
通信運搬費	2,248,956	71,176	10,824	56,393	0	2,387,349	217,286	0	223,077
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0	105,519
消耗品費	270,882	44,714	77,704	196,869	0	590,169	23,100	0	205,782
印刷製本費	93,500	0	0	0	0	93,500	0	0	0
印刷製本費	7,219,156	0	0	0	0	7,219,156	2,031,921	0	0
賃借料	640,572	1,682,845	0	483,531	0	2,806,948	0	0	0
支払リース料	242,204	36,791	0	343,379	0	343,374	0	0	0
諸謝金	11,023	158,642	0	0	0	169,665	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	78,134	78,134	0	0	0
会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払助成金	0	0	50,000	0	0	50,000	0	0	0
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	242,439
委託費	4,417,693	129,121	0	0	0	4,546,814	55	0	25,200
図書費	675,994	107,000	20,000	0	0	802,994	0	0	0
雑費	5,062	99,513	0	1,349	0	105,924	0	0	0
減価償却費	199,992	0	0	0	0	199,992	0	0	0
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払リース料	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
W e b - I	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支部交付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発展事業資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70周年記念事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本部会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	21,221,974	3,096,490	158,528	2,094,234	78,134	26,649,360	2,272,362	0	802,017
評価損益等調整前当期経常増減額	-15,448,614	-1,325,294	-158,528	-1,933,062	-78,134	-18,943,632	3,946,803	0	6,773,426
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-15,448,614	-1,325,294	-158,528	-1,933,062	-78,134	-18,943,632	3,946,803	0	6,773,426
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
償却債権取立益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貸倒引当損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-15,448,614	-1,325,294	-158,528	-1,933,062	-78,134	-18,943,632	3,946,803	0	6,773,426
一般正味財産期首残高	-168,737,645	-41,622,709	-1,113,116	-27,152,316	-1,253,876	-239,879,662	33,266,648	546,398	87,235,801
一般正味財産期末残高	-184,186,259	-42,948,003	-1,271,644	-29,085,378	-1,332,010	-258,823,294	37,213,451	546,398	94,009,227
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-184,186,259	-42,948,003	-1,271,644	-29,085,378	-1,332,010	-258,823,294	37,213,451	546,398	94,009,227

[illegible]

その他会計(公)								法人会計			内部
連合大会(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)	年次大会(支部)	科学博物館展示	共通	小 計	法人会計	法人会計(支部)	小 計	一般事業
0	0	0	0	0	0	0	0	47,100	0	47,100	0
0	0	0	0	0	0	0	0	47,100	0	47,100	0
0	0	0	0	0	0	0	0	471,000	0	471,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	471,000	0	471,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	23,500	0	23,500	0
0	0	0	0	0	0	0	0	23,500	0	23,500	0
0	0	0	0	0	0	0	0	50,877,400	0	50,877,400	0
0	0	0	0	0	0	0	0	26,582,400	0	26,582,400	0
0	0	0	0	0	0	0	0	22,575,000	0	22,575,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	760,000	0	760,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	960,000	0	960,000	0
0	477,500	0	0	0	0	0	3,278,600	0	6,243,744	6,243,744	-6,243,744
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	2,801,100	0	0	0	0
0	477,500	0	0	0	0	0	477,500	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,225,000	6,225,000	-6,225,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,744	18,744	-18,744
0	0	0	0	0	0	0	0	4,300,000	0	4,300,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	4,300,000	0	4,300,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	495,600	0	495,600	0
0	0	0	0	0	0	0	0	495,600	0	495,600	0
335,767	0	0	0	0	0	0	344,467	2,762,451	27	2,762,478	-2,138,301
0	0	0	0	0	0	0	8,700	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	139,997	27	140,024	0
0	0	0	0	0	0	0	0	484,153	0	484,153	0
0	0	0	0	0	0	0	0	2,138,301	0	2,138,301	-2,138,301
335,767	0	0	0	0	0	0	335,767	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
335,767	477,500	0	0	0	0	0	3,623,067	58,977,051	6,243,771	65,220,822	-8,382,045
751,432	85,262	0	167,380	0	0	2,942,458	4,584,347	0	0	0	-18,744
0	0	0	0	0	0	2,461,845	2,461,845	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	43,010	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	210,037	210,037	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	576	0	0	0	0
0	3,330	0	0	0	0	3,613	11,731	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18,744	0	0	0	0	0	1,153	29,236	0	0	0	-18,744
0	0	0	167,380	0	0	0	167,380	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1,032	1,032	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	178,568	342,378	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	31,443	31,443	0	0	0	0
0	66,822	0	0	0	0	0	284,292	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	51,120	51,120	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	45,066	0	0	0	0
728,128	15,000	0	0	0	0	0	771,935	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	68,750	0	0	0	0
110	110	0	0	0	0	0	56,419	0	0	0	0
4,450	0	0	0	0	0	0	4,450	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	3,647	3,647	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	29,968,705	4,621,754	34,590,459	-8,363,301
0	0	0	0	0	0	0	0	8,755,426	0	8,755,426	0
0	0	0	0	0	0	0	0	296,796	0	296,796	0
0	0	0	0	0	0	0	0	460,973	0	460,973	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1,220,043	0	1,220,043	0
0	0	0	0	0	0	0	3,526	0	0	3,526	0
0	0	0	0	0	0	0	0	123,014	93,428	216,442	0
0	0	0	0	0	0	0	0	386,499	73,060	459,559	0
0	0	0	0	0	0	0	0	5,940	0	5,940	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1,503,830	0	1,503,830	0
0	0	0	0	0	0	0	0	324,648	0	324,648	0
0	0	0	0	0	0	0	0	150,721	0	150,721	0
0	0	0	0	0	0	0	0	140,457	0	140,457	0
0	0	0	0	0	0	0	0	159,060	0	159,060	0
0	0	0	0	0	0	0	0	2,599,733	2,311,186	4,910,919	0
0	0	0	0	0	0	0	0	140,452	5,779	146,231	0
0	0	0	0	0	0	0	0	2,078,301	0	2,078,301	0
0	0	0	0	0	0	0	0	478,892	0	478,892	0
0	0	0	0	0	0	0	0	6,225,000	0	6,225,000	-6,225,000
0	0	0	0	0	0	0	0	26,694	0	26,694	0
0	0	0	0	0	0	0	0	4,300,000	0	4,300,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	345,901	0	345,901	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,138,301	2,138,301	-2,138,301
0	0	0	0	0	0	0	0	70,000	0	70,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	172,799	0	172,799	0
751,432	85,262	0	167,380	0	0	2,942,458	4,584,347	29,968,705	4,621,754	34,590,459	-8,382,045
-415,665	392,238	0	-167,380	0	0	-2,942,458	-961,280	29,008,346	1,622,017	30,630,363	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-415,665	392,238	0	-167,380	0	0	-2,942,458	-961,280	29,008,346	1,622,017	30,630,363	0
0	0	0	0	0	0	0	0	36,000	0	36,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	9,100	0	9,100	0
0	0	0	0	0	0	0	0	45,100	0	45,100	0
0	0	0	0	0	0	0	0	15,000	0	15,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	980,400	0	980,400	0
0	0	0	0	0	0	0	0	12,595	0	12,595	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1,007,995	0	1,007,995	0
0	0	0	0	0	0	0	0	-962,895	0	-962,895	0
-415,665	392,238	0	-167,380	0	0	-2,942,458	-961,280	28,045,451	1,622,017	29,667,468	0
-7,752,464	1,135,651	-898,214	-736,442	-99,420	-207,674	-25,729,333	-11,138,689	366,074,196	10,166,811	376,241,007	0
-8,168,129	1,527,889	-898,214	-903,822	-99,420	-207,674	-28,671,791	-12,099,969	394,119,647	11,788,828	405,908,475	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-8,168,129	1,527,889	-898,214	-903,822	-99,420	-207,674	-28,671,791	-12,099,969	394,119,647	11,788,828	405,908,475	0

(単位：円)

消去	
小 計	合 計
0	47,100
0	47,100
0	471,000
0	471,000
0	23,500
0	23,500
0	50,877,400
0	26,582,400
0	22,575,000
0	760,000
0	960,000
-6,243,744	23,906,761
0	5,201,253
0	859,894
0	2,801,100
0	477,500
0	1,237,246
0	5,754,325
0	7,575,443
-6,225,000	0
-18,744	0
0	4,300,000
0	4,300,000
0	495,600
0	495,600
-2,138,301	5,210,847
0	327,900
0	140,024
0	4,255,796
-2,138,301	0
0	335,767
0	151,360
-8,382,045	85,332,208
-18,744	51,597,821
0	20,568,362
0	409,878
0	1,082,923
0	2,814,819
0	1,246
0	2,858,721
0	105,519
-18,744	842,010
0	260,880
0	9,633,943
0	4,399,572
0	560,736
0	453,957
0	658,200
0	45,066
0	771,935
0	50,000
0	311,189
0	4,628,488
0	807,444
0	132,941
0	199,992
-8,363,301	26,227,158
0	8,755,426
0	296,796
0	460,973
0	1,220,043
0	3,526
0	216,442
0	459,559
0	5,940
0	1,503,830
0	324,648
0	150,721
0	140,457
0	159,060
0	4,910,919
0	146,231
0	2,078,301
0	478,892
-6,225,000	0
0	26,694
0	4,300,000
0	345,901
-2,138,301	0
0	70,000
0	172,799
-8,382,045	77,824,979
0	7,507,229
0	0
0	7,507,229
0	36,000
0	65,100
0	101,100
0	85,000
0	980,400
0	12,595
0	1,077,995
0	-976,895
0	6,530,334
0	193,876,469
0	200,406,803
0	0
0	0
0	0
0	200,406,803

財産目録

2021年 3月31日現在

一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	51,325
預金	当座預金		6,584,602
	みずほ新橋		5,560,450
	みずほ青山		1,024,152
	普通預金		35,875,830
	みずほ新橋①		2,580,636
	みずほ新橋②		322,658
	みずほ支部		3,272,176
	三井住友銀行		17,018,408
	三菱UFJ信託		2,298,041
	住友信託銀行		1,512,199
	北海道支部		481,048
	東北支部		321,433
	関西支部		1,076,416
	東海支部		390,471
	中国支部		359,119
	九州支部		408,688
	四国支部		288,408
	北陸支部		209,743
	大和証券		5,336,386
	郵便振替貯金		2,674,117
	郵便振替貯金①		2,625,420
	郵便貯金・普通		48,697
	定期積金		367,075
	みずほ定期		367,075
未収会費			1,955,500
入会金			2,000
正学会員会費			1,838,500
維持会員会費			75,000
アカデミック会費			40,000
未収金			5,276,501
会誌・広告			309,540
技報予約			1,054,820
技報別刷			71,425
技報バックナンバー			43,195
テストチャート			1,624,207
年次大会			103,860
冬季大会			209,200
MTA			296,370
和文論文掲載			1,182,856
研究会			358,250
その他			22,778
棚卸資産			11,623,095
テストチャート完成品			10,854,810
会誌50CD-ROM			768,285
貯蔵品			241,500
有価証券			5,000,000
立替金			26,213
その他			26,213
仮払金			400,010
その他			400,010
貸倒引当金			-85,000
流動資産合計			69,990,768
(固定資産)			
基本財産			3,000,000
定期預金			3,000,000
定期預金(一般)			3,000,000
特定資産			146,569,331
退職給付引当資産			12,515,414
みずほ銀行支部			979
大和証券			5,000,000

	三菱UFJ信託普通			3,564,680
	みずほ新橋①			1,259,000
	住友信託銀行			382,249
	三井住友銀行			2,308,506
	選奨基金			16,130,806
	みずほ銀行当座			1,130,806
	大和証券			15,000,000
	啓発普及基金			14,000,000
	みずほ銀行①			4,000,000
	大和証券			10,000,000
	研究・特別企画基金			26,597,768
	大和証券			20,000,000
	住友信託			4,253,683
	みずほ新橋②			2,344,085
	記念事業特定資			35,850,294
	郵便振替口座			8,167,940
	三井住友銀行			2,682,354
	大和証券			25,000,000
	会誌活性化等特定資			31,871,500
	大和証券			31,000,000
	三菱UFJ信託普通			517,922
	みずほ青山当座			353,578
	事務局設備特定資産			860,310
	三菱UFJ信託			860,310
	鈴木記念賞特定			1,755,175
	みずほ当座			335,909
	三井住友			1,419,266
	発展事業基金			6,988,064
	みずほ銀行①			885,476
	郵便振替口座			6,102,588
その他固定				2,031,496
	ソフトウェア			316,695
	什器備品			1
	保証金			1,714,800
固定資産合計				151,600,827
資産合計				221,591,595
(流動負債)				
	未払金			646,515
	会誌別刷			2,882
	テストチャート			137,638
	調査研究			67,504
	技報作成費			46,970
	技報発送費			28,389
	表彰・コンクール			5,973
	Web-IT・会員管理			41,800
	システム			
	支部			227,044
	その他			88,315
	前受金			34,100
	その他			34,100
	前受会費			868,100
	正学会員会費			368,100
	維持会員会費			500,000
	預り金			302,068
	源泉所得税預り金			135,820
	住民税預り金			120,700
	不明			41,000
	支部			4,548
	賞与引当金			2,578,665
	未払法人税等			70,000
	未払消費税等			154,000
流動負債合計				4,653,448
(固定負債)				
	退職給付引当金			16,531,344
固定負債合計				16,531,344
負債合計				21,184,792
正味財産				200,406,803

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当すべき事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・無形固定資産・一括償却資産
定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、期末債権残高に一定率
を乗じて算出した額を計上している。

賞与引当金・・・翌期支払賞与の当該期間に相当する金額を計上している。

退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000	0	0	3,000,000
小 計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
選 奨 基 金	16,326,850	0	196,044	16,130,806
退 職 給 付 引 当 資 産	12,515,414	0	0	12,515,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
発 展 事 業 基 金	6,519,158	495,600	26,694	6,988,064
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	36,196,195	0	345,901	35,850,294
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	33,871,500	0	2,000,000	31,871,500
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,794,511	0	39,336	1,755,175
小 計	148,681,706	495,600	2,607,975	146,569,331
合 計	151,681,706	495,600	2,607,975	149,569,331

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000		3,000,000	
小 計	3,000,000		3,000,000	
特定資産				
選 奨 基 金	16,130,806		16,130,806	
退 職 給 付 引 当 資 産	12,515,414			12,515,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000		14,000,000	
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768		26,597,768	
発 展 事 業 基 金	6,988,064		6,988,064	
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294		35,850,294	
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	31,871,500		31,871,500	
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310		860,310	
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,755,175		1,755,175	
小 計	146,569,331		134,053,917	12,515,414
合 計	149,569,331		137,053,917	12,515,414

5. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	3,924,615	3,607,920	316,695
そ の 他 工 具 備 品	966,000	965,999	1
合 計	4,890,615	4,573,919	316,696

6. 重要な後発事象

該当なし。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	基 本 財 産	3,000,000	0	0	3,000,000
	基本財産計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産					
	選 奨 基 金	16,326,850	0	196,044	16,130,806
	退 職 給 付 引 当 資 産	12,515,414	0	0	12,515,414
	社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
	研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
	発 展 事 業 基 金	6,519,158	495,600	26,694	6,988,064
	設 備 拡 充 等 特 定 資 産	0	0	0	0
	記 念 事 業 特 定 資 産	36,196,195	0	345,901	35,850,294
	会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	33,871,500	0	2,000,000	31,871,500
	事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
	鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,794,511	0	39,336	1,755,175
	特定資産計	148,681,706	495,600	2,607,975	146,569,331

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
貸倒引当金	65,100	85,000	0	65,100	85,000
賞与引当金	2,566,070	12,595	0	0	2,578,665
退職給付引当金	14,987,448	1,543,896	0	0	16,531,344
引当金計	17,618,618	1,641,491	0	65,100	19,110,009

監 査 報 告

2021年5月11日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会 長 児 野 昭 彦 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監 事 三 嶋 英 俊



監 事 伊 藤 泰 宏



私たち監事は、2020年4月1日から2021年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

2021年度事業計画

1 はじめに（担当：石井総務担当理事）

人類が今まで経験したことのないような大きな出来事である東日本大震災から10年が過ぎ、アメリカ同時多発テロ発生から20年という節目の2021年度は、前年から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症が依然、世界的な大流行をみせるなど暗い中でスタートしました。一方、2021年度はワクチン接種の加速で社会を正常化するという希望の年になると言えるのではないのでしょうか。前年度に延期した東京オリンピック・パラリンピックも海外観客の入国は認めないながらも実施を予定しており、失った日常を徐々に取り戻すため、英知を結集しているところです。わが映像情報メディア学会も、ニューノーマル時代の放送メディア、テレワークやオンライン教育に代表される通信メディア、遠隔医療やデジタルトランスフォーメーションに至るまでの様々な技術、デザイン、その使用方法まで含めた映像、情報、メディアに関する英知を結集する場を提供し続けていきます。

本年度は東京オリンピック・パラリンピック開催予定にあたり、オリンピック関連のイベントとの競合を避けるため、毎年恒例の年次大会は夏季の開催を見送ります。見送った年次大会は冬季大会を兼ねた開催とし、東京オリンピック・パラリンピックに関する特別セッションを計画していきます。特に今回のオリンピック・パラリンピックは前述のように、海外観客の入国は認めない方針であるため、映像や情報を配信する放送やネットメディアの重要性は世界的により一段と高まるものと思います。

今後はワクチンによる新型コロナウイルス感染症の流行が終息するタイミングを見極め、安全面に最大の配慮を払いながら学会活動を可能な限り早期に正常化させることを目指すとともに、年次大会や冬季大会、研究会の開催については、従来のface to faceによる開催方式の利点と最近のオンライン開催のノウハウを生かした遠方からの参加の利便性を鑑み、これまでとは異なる新しい開催方式を模索していきます。

一方、継続的な懸念事項であった会員数の減少については、以前にも増して厳しい状況となっています。本会の安定的な活動を実現するため、引き続き本会の魅力向上や広報活動の強化といった施策を通じて会員の増加を目指すとともに、学会運営の効率化にも取り組む必要があります。このような現状を踏まえ、2021年度も2020年度から継続して「学会の活性化」、「新分野の開拓」、「広報活動と会員サービスの拡充」の3つを基本施策として事業の運営を進めます。

【2021年度基本施策】

1-1 学会の活性化

2021年度の学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとして目的ごとに設置した委員会を実行部隊とし、理事会との情報共有を密に図りながら活動を進めていきます。11委員会が活動の中心となり、それぞれ2020年度に取り纏めたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にしながら活発な学会活動と課題解決に取り組みます。また理事会に関しては全理事および監事が出席する定例理事会の開催回数を8回と維持し、また、リモート開催を積極的に利用して、

各理事の負担を緩和しつつ重要案件を集中的に審議するとともに、支部長や代表代議員の参加も求め、理事、支部、代議員一体となった運営を進めていきます。

2020 年度の予算は、学会創立 70 周年記念大会のオンサイト開催やテストチャートの収入減などを見込み、敢えて赤字編成でスタートしましたが、学会創立 70 周年記念大会のオンライン開催への変更による会場費の減額や研究会開催時の参加費の有料化とそれに伴う技報の電子化により最終的に黒字に転ずることができました。2021 年度は、会費収入や年次大会の不実施による収入減や学会ホームページに使用しているサーバー更新による支出増などにより、引き続き赤字予算を編成することとなりました。

学会活性化の最重要課題である会員増の取り組みとして、2019 年度から始めた年次大会および冬季大会の非会員の参加者を当該年度に限り準会員として登録する準会員制度を継続していきます。この準会員には、会員サービスの一部(学会誌の電子購読およびメールマガジンの配信)を提供することにより、正会員のメリットを享受してもらい、正会員になってもらうものです。2020 年度での準会員から正会員への変更は 21 名中 1 名に留まりましたが、準会員に様々なチャンネルからのアプローチを試み、正会員増を目指していきます。また、大学や高等専門学校などの研究室単位で会員登録できるアカデミックパートナー制度については、メリットをより感じやすく利用しやすい形態についても、導入を検討します。

学会の本部と地方支部の連携強化のための施策として、2020 年度は年 6 回、各支部長または支部長代理に理事会へ参加して頂き、理事会での動きを把握して頂くとともに、本部役員が支部大会に参加して直接対話する機会を設け、意識の共有を図りました。ともに、コロナ禍においてのオンライン開催となっているため、face to face の直の意見交換がやりづらいという欠点があるものの、場所、時間による制限が少ないという利点があります。2021 年度もコロナウィルス感染症の収束が見えていない状況であり、face to face の意見交換は難しいことが予想されます。このため、冬季大会では、例年開催している支部長会議は見送り、別途、オンラインで開催する予定です。さらに、支部大会もオンライン開催が予想されますので、引き続き本部役員が参加し、運営や課題の共有を図ります。

本会ならではの取り組みであるテストチャートの頒布事業については、2019 年 3 月 15 日より頒布を開始した 4K・8K 映像の超高精細・広色域 HDR 版標準動画像(C シリーズ)シリーズが引き続き好評を博しております。この C シリーズ追補版(スタジオ撮影分)の頒布ポリシーを定め、2021 年度中の頒布開始を目指します。さらに、高フレームレート版の標準動画像 D シリーズや 22.2 マルチチャンネル標準音源 B シリーズなど続編の制作検討を継続します。

1-2 新分野の開拓

2021 年度は 2020 年から延期された東京オリンピック・パラリンピックを開催する年です。東京オリンピック・パラリンピックでは、様々なスポーツ映像のための技術が開発され、日の目を見ることでしょう。2021 年冬季大会では、57 年ぶりに開催される東京オリンピックの最新技術を紹介する特別セッションを計画し、より広範囲な参加者を呼び込みます。2020 年のオリンピック・パラリンピック開催をターゲットとしたスポーツ情報処理時限研究会が当初の予定通り、2020 年度をもって終了となりました。スポーツ分野には映像テクノロジーの進歩、コ

コンピュータの進歩、センサ技術の進歩という3つのテクノロジーが大きな影響を及ぼしていると言われています。これら3つのテクノロジーは、当学会が正に所掌する主要部分であります。今後は、スポーツテクノロジーとして、これらの進化が大きく広がるとの予想から、スポーツ情報処理時限研究会を通常の研究会として立ち上げる計画です。また、「Society5.0」の先行的な実現の姿として位置づけられ始動しているスマートシティでは、通信ネットワーク技術とセンシング技術、分析・予測技術、データの可視化技術、これらを活用した新たな応用技術が主要新技術とされており、当学会の所掌分野であることから、このような新しい方面など引き続き時流に沿ったテーマのイベントの企画を検討していきます。

新分野開拓の一環として、国内外の関連学会との連携強化も推進します。既に本会との協定を結んでいるブラジルテレビ放送技術協会(SET: Brazilian Society of Engineering of Television)、韓国放送メディア技術学会(KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)とは、引き続き大会における講師の相互派遣やジョイントセッションなどの連携企画を実施します。国際会議については International Display Workshop (IDW 2021) や International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2022)との共催を継続します。特に、IDW2021では、学会創立70周年記念大会で企画した「研究委員会の今後10年間のグランドチャレンジ」をIDWの依頼により再企画します。また、国内の画像関連学会が合同で開催する International Conference on Advanced Imaging (ICAI 2021)については、引き続きセッション企画を担当することで運営に協力します。

1-3 広報活動と会員サービスの拡充

ホームページやメーリングリスト、各種SNSを活用した情報発信は、有効な広報手段として2021年度も積極的な活用を図っていきます。特に旧来の支部ホームページを見やすく、頻繁な情報発信が可能なよう、編集が容易なホームページとして順次刷新していきます。また、世界的な情報発信に向けて英語版ホームページも改修していきます。4K・8K映像技術展や Inter BEE (国際放送機器展)への出展、業界紙への広告出稿といった、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開します。

学会や研究委員会から会員へ向けた情報発信を充実する目的で、2018年度より検討を始めた個人認証システム(いわゆるマイページと呼ぶ個人会員用のページ)の導入については、当学会も会員の日本工学会で検討を進めている新会員管理システムの開発状況を注視してきました。この新会員管理システムは加盟学協会への利用を目的としたもので、広報委員会を中心にシステムのハード、ソフトの両面からの検討を継続し、早期の導入に繋げていきます。

学会と会員を結ぶ大きな柱として、学会誌と論文誌があります。学会誌では、53回続いたシリーズ<輝け！リケジョ(理系女子)>を終了し、新たにパワーアップした新シリーズ<きらり。中のヒト>を開始します。<きらり。中のヒト>では、映像情報メディア技術一般に関わる多種多様な方々の多彩なプロフィールや仕事内容をお伝えしていくことで、会員間の相互理解を深めていきます。また、論文誌では、英文論文であるMTA (ITE Transactions on Media Technology and Applications)に関して、インパクトファクターが付与されるWeb of Scienceへの収録を目指して、Clarivate Analytics社の審査を待っている状態であり、審査に影響を及ぼす海外

AE (Associate Editors)の追加を検討していきます。和文論文では、他学会と比較して高めの掲載料を他学会と同等もしくは下回る額とするため、必要コストや会計への影響などの要素を元にどの程度の減額が可能かを総合的に検討していきます。

映像技術発展の契機となっているオリンピック・パラリンピックが東京で開催される本年は、本学会の活動自体も世界に向けて大きなアピールができる絶好の機会です。ホームページ、各種 SNS、国外の協定学会や各種国際会議、国内学会、研究会、学会誌、論文誌を通して、広く魅力を伝え、新たな会員獲得に繋がるような企画の立案に取り組んでいきます。

2. 機関誌・論文集・研究会資料等の刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

①冊子体

編集委員会（編集長：佐藤真一）において、会員に新しい情報を提供するとともに、会員の研究発表の場として「映像情報メディア学会誌」を編集、発行し（隔月（奇数月））、会員に配布します。内容については、特集号を中心に企画し、下記の項目を予定しています。

また、特集以外に、タイムリーな技術解説記事、教科書的な連載講座、平易で読み物的な解説記事、冬季大会との連動企画記事、研究委員会、支部との連携による解説記事など、多様な会員のニーズを満たすべく、バランスのとれた魅力的な誌面を目指します。会誌関連動画コンテンツなど、Web サイトとの連携強化を継続して誌面の魅力向上に努めます。学会HPでは＜知っておきたいキーワード＞＜年報＞＜きらり.中のヒト＞＜研究開発ツール＞＜ベンチャービジネス＞を、引き続き全文公開いたします。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

（冊子体）

巻	号	通巻号	特 集 題 目 案	奥付発行年月日	発行部数
75	3	836	ニューノーマルに向き合う映像情報メディア技術	2021 年 5 月 1 日	3,100
75	4	837	オンラインによる知覚認知実験 (ヒューマンインフォメーション研究委員会題目提案)	2021 年 7 月 1 日	3,100
75	5	838	映像情報処理のための高性能計算基盤	2021 年 9 月 1 日	3,100
75	6	839	コロナ禍におけるオンライン授業, オンライン研究会 (映像表現 & CG 研究委員会題目提案) 映像情報メディアの発展を支えるイメージセンサ	2021 年 11 月 1 日	3,100
76	1	840	コロナ禍における番組制作と視聴者動向 鉄道を支える映像情報技術	2022 年 1 月 1 日	3,100
76	2	841	オリンピック イメージセンシングの最新動向	2022 年 3 月 1 日	3,100

（2）論文関係

①和文論文

和文論文編集委員会（委員長：藤井俊彰）において、オンラインジャーナルとして冊子体和文
計 4

送本と同時期に全文を一般公開します。内容については、下記特集を予定しています。また、各研究委員会との連携を一層強化し、特集号の充実を図り、新たな試みを企画し、論文投稿数、掲載数の確保に努力します。さらには Twitter および学会 Facebook により、継続して論文募集を行います。

(オンラインジャーナル/投稿欄)

巻	月号	特 集 題 目 案	公開年月日
75	5	一般論文	2021 年 5 月 1 日
75	7	一般論文	2021 年 7 月 1 日
75	9	一般論文	2021 年 9 月 1 日
75	11	ディスプレイ-IDW ' 20 を中心にー	2021 年 11 月 1 日
76	1	選奨 (技術振興賞/映像情報メディア未来賞) 受賞者論文 (招待論文)	2022 年 1 月 1 日
76	3	一般論文	2022 年 3 月 1 日

②英語論文 (MTA)

MTA編集委員会(委員長:藤井俊彰)において、会員のグローバルな研究発表の場としてオンラインジャーナル「ITE Transactions on Media Technology and Applications (略称, MTA)」を編集、年4回発行し、会誌発行日と同時期に全文を一般公開します。内容については、毎号特集を中心に企画し、下記を予定しています。また、新たな試みを企画し、幅広く投稿勧誘を行うなど、一定数以上の投稿数ならびに掲載数の確保に努力します。さらに、MTAの引用数の増加と国際発進力の強化を引き続き行い、Impact Factor 取得を目指して努力します。

Vol., No.	Special Section Title	公開年月日
Vol.9, No.3	Media Engineering and Applications	2021 年 7 月 1 日
Vol.9, No.4	IDW ' 20	2021 年 10 月 1 日
Vol.10, No.1	Regular Section	2022 年 1 月 1 日
Vol.10, No.2	Regular Section	2022 年 4 月 1 日

(3) 大会講演予稿集の発行

①冬季大会講演予稿集 (Webダウンロード版およびCD-R版) 作成。

参加予定人数: 300名

(4) 研究会資料「技術報告」の刊行

研究会資料「映像情報メディア学会技術報告」を各号約120部発行します。

3. 調査研究活動 (定款 第4条 (3))

学会の最も基本的な活動である研究活動については、最近の急速な技術の進展に対処するため、例年以上に積極的に推進します。

技術委員会(委員長:伊東 晋)において、広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し、研究委員会の活動を統轄調整し、その円滑な運営をはかります。研究会の活性

学会の最も基本的な活動である研究活動については、最近の急速な技術の進展に対処するため、例年以上に積極的に推進します。

技術委員会（委員長：伊東 晋）において、広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し、研究委員会の活動を統轄調整し、その円滑な運営をはかります。研究会の活性化についても、鋭意検討を進めます。研究活動を実施するための下記委員会を置きます。

研究委員会が開催する研究会は、会員が積極的に発表・討議に参加できるよう公開開催とします。昨年度より参加費が有料となりました。予稿はWEBダウンロード配布となり、当日と事前の参加登録が可能となります。

また、研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」（含：CD-ROM版）を研究委員会別予約制により有料頒布します。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、5月以降も当面は、オンライン開催が中心となりますが、ワクチン接種などの状況を見ながら、現地開催或いはハイブリッド開催等の対応を検討、実施することとします。

<研究委員会>

委 員 会 名	委 員 長 名
情報センシング研究委員会	秋 田 純 一
情報ディスプレイ研究委員会	都 築 俊 満
マルチメディアストレージ研究委員会	町 田 賢 司
放送技術研究委員会	斎 藤 恭 一
ヒューマンインフォメーション研究委員会	永 井 岳 大
メディア工学研究委員会	新 井 啓 之
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	名 手 久 貴
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	上 田 哲 三
立体映像技術研究委員会	陶 山 史 朗

(1) <研究会年間予定>

「情報センシング研究会」委員長：秋田純一（金沢大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 6月 3日 ～ 4日	オンライン	映像・信号の処理・解析・AI技術とその多分野応用	18件	20～30名
6月30日	オンライン	高機能イメージセンシングとその応用	未定	20～30名
7月	北海道 or オンライン	イメージセンサのインタフェース回路、アナログ回路	未定	20～30名
9月	東京 or オンライン	イメージセンサ	未定	20～30名
11月	東京 or オンライン	新機能光学素子とイメージセンサ	未定	20～30名
2022年 2月	東京 or オンライン	赤外線センサ（赤外放射の応用関連学会）	未定	20～30名

3月	東京 or オンライン	固体撮像技術	未 定	20～30 名
----	----------------	--------	-----	---------

「情報ディスプレイ研究会」委員長：都築俊満（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 7月	東京	S I D報告会	未 定	20～30 名
8月	東京	ディスプレイ	未 定	20～30 名
10月	東京	画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター	未 定	20～30 名
11月	オンライン	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2022年 1月	未定	発光型・非発光型ディスプレイ	未 定	20～30 名
3月	東京	ディスプレイ技術シンポジウム	未 定	20～30 名

「マルチメディアストレージ研究会」委員長：町田賢司（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 6月10日 11日	宮城+ オンライン	記録システム	未 定	20～30 名
10月 7日 8日	神奈川	固体メモリ・媒体+ヘッド・スピントロニクス	未 定	20～30 名
12月 9日 10日	愛媛	信号処理	未 定	20～30 名
2022年 2月	北海道	I T S画像処理, 映像メディア	未 定	20～30 名

「放送技術研究会」委員長：斎藤恭一（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 6月11日	オンライン	放送現業技術・送受信技術,番組制作技術・送出技術	未 定	20～30 名
9月 3日	オンライン	移動送受信技術	未 定	20～30 名
10月 7日 8日	北海道	放送・通信連携, 知的マルチメディア処理システム等	未 定	20～30 名
10月29日	東京	放送設備見学会：テレビ朝日	未 定	20～30 名
11月18日 19日	北九州	放送技術, 有線技術, 光技術等	未 定	20～30 名
11月25日 26日	未定	画像符号化・通信・ストリーム技術・放送技術	未 定	20～30 名
2022年 1月20日 21日	福岡	アンテナ・伝搬, マイクロ波における学生若手発表	未 定	20～30 名
2月17日 18日	滋賀	学生・若手発表	未 定	20～30 名
3月11日	沖縄	デジタル放送技術	未 定	20～30 名

「ヒューマンインフォメーション研究会」委員長：永井岳大（東京工業大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 6月 1日 2日	オンライン	人工現実感,エンタテインメント,メディアエクスペリエンス	未 定	20～30 名
10月	大阪 or オンライン	視聴覚	未 定	20～30 名

2022年 3月	東京	視聴覚	未 定	20～30 名
-------------	----	-----	-----	---------

「メディア工学研究会」委員長：新井啓之（日本工業大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 6月 3日 4日	オンライン	映像・信号の処理・解析・AI技術とその多分野応用	18件	20～30 名
7月16日	オンライン	画像処理・マルチメディア情報処理・インタフェースとその応用	未 定	20～30 名
8月	オンライン (仮)	サマーセミナー（若葉研究者の集い）	未 定	20～30 名
9月	オンライン (仮)	マルチメディア通信／システム，ライフログ活用技術，IP放送／映像伝送，メディアセキュリティ，メディア処理（AI，深層学習）	未 定	20～30 名
12月	オンライン or 現地	調整中	未 定	20～30 名
2022年 1月	香港(予定)	IWAIT2022	未 定	20～30 名
2月	オンライン or 北海道	ITS画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名
2月	オンライン or 神奈川	学生研究発表会	未 定	20～30 名

「映像表現&コンピュータグラフィックス研究会」委員長：名手久貴（東京工芸大）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 8月	地方 or オンライン	画像一般（色再現，立体映像，CG，VR，アニメーション技術，画像処理，ME 関係，画像符号化）	未 定	20～30 名
9月	東京 or オンライン	立体映像及びホログラフィ	未 定	20～30 名
11月	オンライン	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2022年 1月	香港(予定)	IWAIT2022	未 定	20～30 名
2月	オンライン or 北海道	ITS画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名
3月	オンライン or 東京	映像表現・芸術科学フォーラム2022 (Expressive Japan 2022)	未 定	20～30 名

「アントレプレナー・エンジニアリング研究会」委員長：上田哲三（パナソニック）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 5月22日 or 6月12日	京都(予定)	先例に学ぶ危機突破のイノベーション：産官学民の総力戦，阪神淡路大震災からの復活劇	未 定	20～30 名
6月	京都	半導体技術の最先端動向	未 定	20～30 名
9月	東京	地域ビジネスイノベーション	未 定	20～30 名

「立体映像技術研究会」委員長：陶山史朗（徳島大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2021年 9月	東京	立体映像およびホログラフィー	未 定	20～30 名
10月	未定	立体映像技術	未 定	20～30 名
10月	東京	画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター	未 定	20～30 名
11月	オンライン	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2022年 3月	東京	立体の視覚・生体, コンテンツ, アプリケーション, 立体映像技術	未 定	20～30 名

4. 大会、講演会の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する大会を企画し、会員のみならず、広くわが国の技術レベルを高めるべく、適正規模で開催します。

（1）2021年度年次大会（主催）

例年8月下旬に開催しており、今年度は東京オリンピック・パラリンピックと時期が重なるため、開催は見送ることといたしました。

（2）2021年度冬季大会（主催）

実行委員会（委員長 岩城正和／副会長）を置き、時期・場所の検討を進めるとともに、大会の運営にあたります。

5. 国際会議の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する国際会議に積極的に取り組み、国外との交流を図ります。

（1）ICA I 2021（協賛・企画協力）

2021年10月4日～8日の5日間、幕張メッセ国際会議場において、日本写真学会、日本印刷学会、日本画像学会、I S & Tが共催で開催しますが、会期中に本会企画セッション開催へ向けて引き続き協力いたします。

（2）第28回ディスプレイ国際ワークショップ（I D W 2021）（共催）

2021年12月1日～3日の3日間、オンライン開催にて、S I D（本部）と共催します。

（3）この他にも、国際会議検討委員会において検討を進めると共に、他学会との関係性維持にも努めてまいります。

6. ITE テストチャートの作成・頒布(定款 第4条(2))

I T E テストチャート委員会(委員長：井口和久)を中心に次の事業展開を行います。

（1）超高精細・広色域標準動画像小委員会(主査：松田一朗), A R I B と共同で超高精細・広色域標準動画像Dシリーズ(H F R：ハイフレームレート版,8K120P,240P)の検討を進めます。また、超高精細・広色域 HDR 版標準動画像Cシリーズ追補版の早期頒布開始を目指します。

（2）3次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会(主査 小野一穂), A R I B と共同でダ

ウンミックス時の標準音源について継続検討し、頒布開始を目指します。

7. 図書の刊行・企画（定款 第4条（2）項）

編集委員会（編集長：佐藤真一）は、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化などを検討します。出版が困難な場合は、会員サービスとして、学会ホームページにて全文公開します。

8. 研究の奨励および業績の表彰（定款 第4条（5））

（1）学会賞関係

選奨委員会（委員長：斎藤英雄／副会長）において、本学会にふさわしい選奨のありかた、選定方法等について検討を行います。その結論に基づき、丹羽高柳賞、技術振興賞、鈴木記念奨励賞、映像情報メディア未来賞の諸賞を選定し、贈呈いたします。

また例年、年次大会・冬季大会で優秀な講演を行った学生・高専生を対象に、それぞれの大会実行委員会で選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたしますが、2021年度の年次大会は、東京オリンピック・パラリンピックと開催時期が重なることから、開催を見送ることとしたため、2021年度は冬季大会実行委員会のみで選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたします。研究会での発表を対象とした優秀発表は、各研究委員会が選定し、「優秀研究発表賞」を贈呈いたします。

①丹羽高柳賞：功績賞：2名以内

〃 業績賞：2件以内

〃 論文賞：3編以内

②鈴木記念奨励賞：5名以内

③技術振興賞：進歩開発賞（現場運用部門）：3件以内

〃 進歩開発賞（研究開発部門）：3件以内

〃 コンテンツ技術賞：3件以内

④映像情報メディア未来賞：3件以内

⑤学生優秀発表賞：冬季大会：5件以内

⑥優秀研究発表賞：10件～15件程度

（2）フェロー会員の認定

フェロー選定委員会（委員長：岩城正和／副会長）において、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本学会活動に貢献された正会員の中から、フェロー会員を認定します。2021年フェロー選定委員会において、新たに5名の候補者を認定いたしました。これにより、フェロー認定者総数は126名（物故者、退会者を除く）となり、フェロー選出規程第13条第3項「フェローの総数は、正会員および名誉会員の合計数の5%相当を上限とする。」によると、現在の正会員および名誉会員の総数は2468名であり、この5%は123.4名となるため、2022年以降は本規程に抵触することとなり、フェロー候補者を認定できないこととなります。このため、フェロー選定委員会を9月過ぎに立ち上げ、フェロー選出規程の改定を検討いたします。

9. 青少年および社会に対する啓発普及（定款 第4条（7））

一般市民も対象にした公開講演会（入場無料）は、例年年次大会行事として検討しますが、2021年度の年次大会は、東京オリンピック・パラリンピックと開催時期が重なることから、開催を見送ることとしたため、2021年度冬季大会において、開催を検討いたします。

10. 会議および委員会等（定款 第4条（8））

- （1）第68回定時社員総会：2022年5月27日（金）開催
- （2）理事会：6月・7月・10月・12月・1月・3月・4月・5月の8回開催
（年3回、会長が指名する代表代議員の参加を予定、また支部長、研究委員会委員長の参加を検討します）
- （3）広報委員会：随時開催
- （4）編集関係委員会
 - ① 編集委員会（企画委員会）：年7回開催
 - ② 同（年次企画委員会）：年3回開催
 - ③ 同（海外文献部門委員会）：年4回程度開催
 - ④ 同（ニュース部門委員会）：記事選定のみの場合はメール審議、議案があれば委員会を開催
- （5）論文委員会（和文論文運営委員会、英語論文運営委員会）：随時開催
- （6）技術委員会：4月～3月の期間に3回～4回開催
- （7）選奨関係委員会（リモート開催）
 - ① 選奨委員会：第1回会議を11月に開催し、前年度申継事項および諸課題を検討
 - ② 「技術振興賞」進歩開発賞（現場運用部門）・（研究開発部門）選考専門部会：3月に開催
 - ③ 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会：3月に開催（地方開催予定）
 - ④ 映像情報メディア未来賞選考専門部会：3月に開催
 - ⑤ 「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞・論文賞の選考
※功績賞・業績賞は推薦件数により1回または2回投票、論文賞は1回投票
 - ⑥ 鈴木記念奨励賞の選考（2回投票）
- （8）フェロー選定委員会：3回開催（推薦締切を12月末、第1回委員会は9月開催予定）
- （9）テストチャート委員会：随時開催
- （10）国際連携委員会
 - ① ICAI2021 実行委員会に随時参加
 - ② その他、海外学会との交流
- （11）映像情報メディア発展事業資金運営委員会：随時開催
- （12）長期計画検討委員会：随時開催
- （13）電気・情報関連学会連絡協議会：7月と1月の年2回開催

以上

2021年度予算報告書

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

収支予算書

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで
一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	10,000	1,000	9,000
特定資産運用益	10,000	1,000	9,000
特定資産受取金	400,000	400,000	0
特定資産受取金	400,000	400,000	0
受取金	20,000	30,000	-10,000
受取金	20,000	30,000	-10,000
正学取会会費	49,150,000	52,175,000	-3,025,000
維持特殊会会費	25,200,000	27,000,000	-1,800,000
維持特殊会会費	22,250,000	23,375,000	-1,125,000
アミューズメント事業	700,000	800,000	-100,000
アミューズメント事業	1,000,000	1,000,000	0
事業	20,064,000	26,820,000	-6,756,000
会誌	3,480,000	3,710,000	-230,000
会誌	900,000	900,000	0
会誌	1,400,000	2,800,000	-1,400,000
会誌	660,000	1,100,000	-440,000
会誌	1,000,000	1,822,000	-822,000
会誌	5,774,000	6,188,000	-414,000
会誌	30,000	200,000	-170,000
会誌	6,820,000	10,100,000	-3,280,000
会誌	500,000	450,000	50,000
会誌	500,000	450,000	50,000
会誌	450,000	961,000	-511,000
会誌	50,000	1,000	49,000
会誌	400,000	400,000	0
会誌	0	560,000	-560,000
経常収益計	70,594,000	80,837,000	-10,243,000
(2) 経常費用			
事業費	56,430,000	57,138,000	-708,000
給料遣手当金	18,938,000	16,453,000	2,485,000
給料遣手当金	550,000	910,000	-360,000
給料遣手当金	2,275,000	2,151,000	124,000
給料遣手当金	385,000	775,000	-390,000
給料遣手当金	3,820,000	3,951,000	-131,000
給料遣手当金	1,294,000	1,466,000	-172,000
給料遣手当金	200,000	200,000	0
給料遣手当金	13,163,600	13,985,600	-822,000
給料遣手当金	4,832,000	5,526,000	-694,000
給料遣手当金	634,000	634,000	0
給料遣手当金	740,000	1,040,000	-300,000
給料遣手当金	653,000	670,000	-17,000
給料遣手当金	855,000	885,000	-30,000
給料遣手当金	100,000	100,000	0
給料遣手当金	4,818,400	4,469,400	349,000
給料遣手当金	900,000	900,000	0
給料遣手当金	272,000	522,000	-250,000
給料遣手当金	2,000,000	2,500,000	-500,000
給料遣手当金	25,433,000	32,509,000	-7,076,000
給料遣手当金	8,812,000	14,617,000	-5,805,000
給料遣手当金	400,000	0	400,000
給料遣手当金	450,000	0	450,000
給料遣手当金	1,225,000	1,679,000	-454,000
給料遣手当金	262,000	262,000	0
給料遣手当金	274,000	219,000	55,000
給料遣手当金	577,000	243,000	334,000
給料遣手当金	245,000	195,000	50,000
給料遣手当金	1,508,000	1,508,000	0
給料遣手当金	367,000	367,000	0
給料遣手当金	200,000	200,000	0
給料遣手当金	300,000	500,000	-200,000
給料遣手当金	1,131,000	1,608,000	-477,000
給料遣手当金	350,000	455,000	-105,000
給料遣手当金	384,000	200,000	184,000
給料遣手当金	5,145,000	5,039,000	106,000
給料遣手当金	383,000	343,000	40,000
給料遣手当金	2,500,000	2,100,000	400,000
給料遣手当金	600,000	800,000	-200,000
給料遣手当金	250,000	10,000	240,000
給料遣手当金	0	2,094,000	-2,094,000
給料遣手当金	70,000	70,000	0
経常費用計	81,863,000	89,647,000	-7,784,000
評価損益等調整前当期経常増減額	-11,269,000	-8,810,000	-2,459,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-11,269,000	-8,810,000	-2,459,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-11,269,000	-8,810,000	-2,459,000
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	-11,269,000	-8,810,000	-2,459,000
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	-11,269,000	-8,810,000	-2,459,000

収支予算書内訳表

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

一般社団法人映像情報メディア学会

科 目	実施事業				その他会計(収)		
	会誌関係事業	研究会関係事業	表彰、コンクール	共通	技術報告関係	図書関係	ウェブサイト関係
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用受取利益	140,000	80,000	60,000	0	0	0	0
特定資産受取金	140,000	80,000	60,000	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0
受取学生会費	0	0	0	0	0	0	0
受取学持会費	0	0	0	0	0	0	0
受取特種会費	0	0	0	0	0	0	0
受取7カデミックパートナー業	0	0	0	0	0	0	0
事業関係収入	3,480,000	1,000,000	0	0	5,774,000	30,000	6,820,000
会誌頒布収入	3,480,000	0	0	0	0	0	0
会誌季刊大会収入	0	0	0	0	0	0	0
講習研究会収入	0	0	0	0	0	0	0
研究報告収入	0	1,000,000	0	0	0	0	0
技術書関係収入	0	0	0	0	5,774,000	0	0
ウェブサイト収入	0	0	0	0	0	30,000	0
本部交付金収入	0	0	0	0	0	0	6,820,000
研究会等補助金収入	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
発展事業寄付金	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	3,620,000	1,080,000	60,000	0	5,774,000	30,000	6,820,000
(2) 経常費用							
事業費	23,700,000	4,292,000	1,987,000	160,000	3,070,000	0	950,000
給料遣当金	3,694,000	561,000	982,000	0	0	0	0
派遣賃金	350,000	100,000	0	0	0	0	0
福利厚生費	494,000	75,000	131,000	0	0	0	0
旅費	10,000	0	0	0	0	0	10,000
通信費	2,813,000	113,000	64,000	0	370,000	0	220,000
消耗品	438,000	156,000	251,000	0	0	0	200,000
修繕費	200,000	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	9,576,600	100,000	0	0	2,700,000	0	100,000
賃借料	642,000	2,283,000	485,000	0	0	0	0
支払リース金	274,000	42,000	73,000	0	0	0	0
諸謝金	30,000	200,000	0	0	0	0	0
会費	0	250,000	0	0	0	0	20,000
支分負担金	0	0	0	0	0	0	0
広報宣伝費	0	0	0	0	0	0	100,000
委託書	4,373,400	125,000	0	0	0	0	300,000
図書費	800,000	100,000	0	0	0	0	0
雑費等	5,000	187,000	1,000	0	0	0	0
管理費	0	0	0	160,000	0	0	0
給料遣当金	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0
旅費	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	0	0	0	0	0
消耗品	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
支払リース金	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0
税金	0	0	0	0	0	0	0
会費	0	0	0	0	0	0	0
支分負担金	0	0	0	0	0	0	0
広報宣伝費	0	0	0	0	0	0	0
委託書	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0
Web管理費	0	0	0	0	0	0	0
支部管支金	0	0	0	0	0	0	0
発展事業資金	0	0	0	0	0	0	0
法人税	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	23,700,000	4,292,000	1,987,000	160,000	3,070,000	0	950,000
評価損益等調整前当期経常増減額	-20,080,000	-3,212,000	-1,927,000	-160,000	2,704,000	30,000	5,870,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-20,080,000	-3,212,000	-1,927,000	-160,000	2,704,000	30,000	5,870,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-20,080,000	-3,212,000	-1,927,000	-160,000	2,704,000	30,000	5,870,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-20,080,000	-3,212,000	-1,927,000	-160,000	2,704,000	30,000	5,870,000
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-20,080,000	-3,212,000	-1,927,000	-160,000	2,704,000	30,000	5,870,000

(単位：円)

会誌頒布	共通	その他会計(公)			法人会計	本部合計	支部合 計	内部消去	合計
		冬季大会	国際講演会	共通					
0	0	0	0	0	10,000	10,000	0	0	10,000
0	0	0	0	0	10,000	10,000	0	0	10,000
0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	49,150,000	49,150,000	0	0	49,150,000
0	0	0	0	0	25,200,000	25,200,000	0	0	25,200,000
0	0	0	0	0	22,250,000	22,250,000	0	0	22,250,000
0	0	0	0	0	700,000	700,000	0	0	700,000
0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000	0	0	1,000,000
900,000	0	1,400,000	0	0	0	19,404,000	6,741,000	-6,081,000	20,064,000
0	0	0	0	0	0	3,480,000	0	0	3,480,000
900,000	0	0	0	0	0	900,000	0	0	900,000
0	0	1,400,000	0	0	0	1,400,000	0	0	1,400,000
0	0	0	0	0	0	0	660,000	0	660,000
0	0	0	0	0	0	1,000,000	0	0	1,000,000
0	0	0	0	0	0	5,774,000	0	0	5,774,000
0	0	0	0	0	0	30,000	0	0	30,000
0	0	0	0	0	0	6,820,000	0	0	6,820,000
0	0	0	0	0	0	0	6,051,000	-6,051,000	0
0	0	0	0	0	0	0	30,000	-30,000	0
0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	450,000	450,000	0	0	450,000
0	0	0	0	0	50,000	50,000	0	0	50,000
0	0	0	0	0	400,000	400,000	0	0	400,000
900,000	0	1,400,000	0	0	50,250,000	69,934,000	6,741,000	-6,081,000	70,594,000
0	17,277,000	1,000,000	53,000	1,601,000	0	54,090,000	2,340,000	0	56,430,000
0	12,413,000	0	0	1,288,000	0	18,938,000	0	0	18,938,000
0	0	100,000	0	0	0	550,000	0	0	550,000
0	1,427,000	0	0	148,000	0	2,275,000	0	0	2,275,000
0	0	0	0	0	0	20,000	365,000	0	385,000
0	32,000	100,000	0	3,000	0	3,715,000	105,000	0	3,820,000
0	40,000	100,000	0	4,000	0	1,189,000	105,000	0	1,294,000
0	0	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
0	79,000	150,000	0	8,000	0	12,713,600	450,000	0	13,163,600
0	1,198,000	100,000	0	124,000	0	4,832,000	0	0	4,832,000
0	222,000	0	0	23,000	0	634,000	0	0	634,000
0	0	300,000	0	0	0	530,000	210,000	0	740,000
0	0	100,000	53,000	0	0	423,000	230,000	0	653,000
0	0	0	0	0	0	0	855,000	0	855,000
0	0	0	0	0	0	100,000	0	0	100,000
0	0	0	0	0	0	4,798,400	20,000	0	4,818,400
0	0	0	0	0	0	900,000	0	0	900,000
0	0	0	0	0	0	272,000	0	0	272,000
0	26,000	50,000	0	3,000	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	1,840,000	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	0	0	27,113,000	27,113,000	4,401,000	-6,081,000	25,433,000
0	0	0	0	0	8,812,000	8,812,000	0	0	8,812,000
0	0	0	0	0	400,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	450,000	450,000	0	0	450,000
0	0	0	0	0	1,225,000	1,225,000	0	0	1,225,000
0	0	0	0	0	100,000	100,000	162,000	0	262,000
0	0	0	0	0	134,000	134,000	140,000	0	274,000
0	0	0	0	0	512,000	512,000	65,000	0	577,000
0	0	0	0	0	50,000	50,000	195,000	0	245,000
0	0	0	0	0	1,508,000	1,508,000	0	0	1,508,000
0	0	0	0	0	367,000	367,000	0	0	367,000
0	0	0	0	0	200,000	200,000	0	0	200,000
0	0	0	0	0	300,000	300,000	0	0	300,000
0	0	0	0	0	260,000	260,000	871,000	0	1,131,000
0	0	0	0	0	0	0	350,000	0	350,000
0	0	0	0	0	384,000	384,000	0	0	384,000
0	0	0	0	0	2,600,000	2,600,000	2,545,000	0	5,145,000
0	0	0	0	0	310,000	310,000	73,000	0	383,000
0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000	0	0	2,500,000
0	0	0	0	0	600,000	600,000	0	0	600,000
0	0	0	0	0	6,081,000	6,081,000	0	-6,081,000	0
0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	250,000
0	0	0	0	0	70,000	70,000	0	0	70,000
0	17,277,000	1,000,000	53,000	1,601,000	27,113,000	81,203,000	6,741,000	-6,081,000	81,863,000
900,000	-17,277,000	400,000	-53,000	-1,601,000	23,137,000	-11,269,000	0	0	-11,269,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-17,277,000	400,000	-53,000	-1,601,000	23,137,000	-11,269,000	0	0	-11,269,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-17,277,000	400,000	-53,000	-1,601,000	23,137,000	-11,269,000	0	0	-11,269,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-17,277,000	400,000	-53,000	-1,601,000	23,137,000	-11,269,000	0	0	-11,269,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-17,277,000	400,000	-53,000	-1,601,000	23,137,000	-11,269,000	0	0	-11,269,000

2021年度 支部予算(合算)

(単位:円)

科 目	要求合計額	備 考
I. 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
本部交付金	6,051,000	
研究会等補助金収入	30,000	
事業収入	660,000	
連合大会	0	
講習会収入	660,000	
講演会収入	0	
見学会収入	0	
年次大会	0	
雑収入	0	
連合大会繰入金	0	
事業活動収入計	6,741,000	
2. 事業活動支出		
事業費支出	2,885,000	
連合関係費	830,000	
講習会費	370,000	
講演会費	590,000	
見学会費	340,000	
研究会費	155,000	
年次大会費	55,000	
支部ホームページ	195,000	
その他事業費	350,000	
管理費支出	3,856,000	
交通費	162,000	
通信費	140,000	
消耗品費	65,000	
会議費	13,000	
総会費	336,000	
役職会費	185,000	
支部長会議費	337,000	
委託経費	2,545,000	
雑費	73,000	
事業活動費支出計	6,741,000	
事業活動収支差額	0	
II. 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
各種発基金取崩収入	0	
引当金戻入収入	0	
発展事業資金収入	0	
投資活動収入計	0	
2. 投資活動支出		
各種基金取得支出	0	
引当金繰入支出	0	
発展事業資金繰入支出	0	
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入	0	
2. 財務活動支出	0	
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出	0	
当期予算収支差額	0	
前期繰越予算収支差額	0	
次期繰越予算収支差額	0	

2021年度 支部予算(明細)

2020年(参考)		550,000	466,000	320,000	450,000
科 目		北海道	東北	北陸	東海
Ⅰ. 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
本部交付金	550,000	442,000	320,000	450,000	
研究会等補助金収入	0	0	0	0	
事業収入	0	0	0	0	
連合大会	0	0	0	0	
講習会収入	0	0	0	0	
講演会収入	0	0	0	0	
見学会収入	0	0	0	0	
年次大会	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
連合大会繰入金	0	0	0	0	
事業活動収入計	550,000	442,000	320,000	450,000	
2. 事業活動支出					
①事業費支出	350,000	325,000	130,000	360,000	
連合関係費	100,000	130,000	30,000	60,000	
講習会費	0	10,000	0	0	
講演会費	250,000	50,000	40,000	0	
見学会費	0	80,000	0	250,000	
研究会費	0	5,000	30,000	0	
年次大会費	0	5,000	0	0	
支部ホームページ	0	5,000	0	0	
その他事業費	0	40,000	30,000	50,000	
②管理費支出	200,000	117,000	190,000	90,000	
交通費	0	2,000	40,000	10,000	
通信費	20,000	10,000	10,000	0	
消耗品費	25,000	15,000	0	5,000	
会議費	0	3,000	0	0	
総会費	15,000	54,000	80,000	30,000	
役職会費	15,000	5,000	25,000	5,000	
支部長会議費	120,000	22,000	25,000	30,000	
委託経費	5,000	3,000	10,000	10,000	
雑費	0	3,000	0	0	
事業活動支出計	550,000	442,000	320,000	450,000	
事業活動収支差額	0	0	0	0	
Ⅱ. 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
各種基金取崩収入	0	0	0	0	
引当金戻入収入	0	0	0	0	
発展事業資金戻入収入	0	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	0	
2. 投資活動支出					
各種基金取得支出	0	0	0	0	
引当預金繰入支出	0	0	0	0	
発展事業資金繰入支出	0	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	0	
Ⅲ. 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入		0	0	0	0
2. 財務活動支出		0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	
Ⅳ. 予備費支出		0	0	0	0
当期収支差額	0	0	0	0	
次期繰越金	0	0	0	0	
収支差額	0	0	0	0	

(単位:円)

3,130,000

400,000

444,000

465,000

6,225,000

[illegible]

2021年度役員改選選挙結果

2021年度役員改選選挙は、名誉会員および正会員の投票により行われ、以下の方々を選出した。
なお、理事の担務は5月28日開催の臨時理事会において協議のうえ正式に確定する。

＜投票期間：2月20日（土）0時～3月19日（金）24時＞

次期会長：伊丹 誠（東京理科大学）
副会長（本部）：岩城正和（NHK エンジニアリングシステム）
副会長（支部）：塩入 諭（東北大学）
総務担当理事：川田亮一（KDDI 総合研究所）
会計担当理事：志水信哉（NTT）
調査担当理事：倉掛卓也（NHK）
編集担当理事：橋本直己（電気通信大学）
企画担当理事：徳田 崇（東京工業大学）
監事：出葉義治（LG Japan Lab）

2020年度役員・委員等名簿

(2021年3月31日現在)

注) 氏名欄の「→」は、任期中の交代を示す。

(1) 役員・代議員

*印：代表代議員

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
会 長	児 野 昭 彦	N H K	代議員	工 藤 栄 亮	東 北 工 業 大 学
次期会長	田 中 孝 司	K D D I	〃	熊 澤 逸 夫	東 京 工 業 大 学
副 会 長	今 井 亨	N H K	〃	小 池 崇 文	法 政 大 学
〃	馬 場 口 登 雄	大 阪 大 学	〃	高 阪 洋 一	ア ス ト ロ デ ザ イ ン
〃	齋 藤 英 雄	慶 應 義 塾 大 学	〃	斎 藤 恭 一	N H K
〃	石 橋 真 一	名 古 屋 工 業 大 学	〃 *	佐 野 雅 規	N H K
編 集 長	佐 藤 真 一	国 立 情 報 学 研 究 所	〃	志 田 晴 康	N H K 福 井
総務担当	松 田 一 朗	東 京 理 科 大 学	〃	篠 田 浩 一	東 京 工 業 大 学
〃	石 井 紀 彦	N H K	〃	島 矢 勝 久	あ い テ レ ビ
会計担当	森 住 紀 俊	N T T	〃	瀧 口 吉 郎	N H K
〃	星 沢 拓 勝	日 立 L G デ ー タ ス ト レ ー ジ	〃	鶴 岡 信 治	鈴 鹿 医 療 科 学 大 学
調査担当	菅 野 誠 彦	K D D I 総 合 研 究 所	〃 *	内 藤 岳 大	K D D I 総 合 研 究 所
〃	佐 藤 俊 彦	日 本 テ レ ビ	〃	永 成 見 昭	東 京 工 業 大 学
編集担当	山 崎 裕 樹	東 京 大 学	〃	成 野 地 昭	N H K 松 山
〃	洗 井 裕 樹	N H K	〃	野 澤 知 一	N H K 仙 台
企画担当	高 岩 英 俊	電 気 通 信 大 学	〃	深 福 田 雅 俊	T B S テ レ ビ
〃	三 嶋 英 泰	フ ジ テ レ ビ	〃 *	藤 井 信 良	毎 日 放 送
監 事	伊 相 澤 昌 純	三 菱 電 機	〃	藤 田 信 良	名 古 屋 大 学
代 議 員	会 津 昌 夫	N H K - E S	〃	船 橋 信 彦	大 阪 電 気 通 信 大 学
〃	秋 田 純 一	東 京 大 学	〃	本 間 健 二	N H K
〃	新 井 啓 高	リ ア ン	〃 *	松 野 知 宏	札 幌 テ レ ビ
〃	安 藤 嘉 直	金 沢 大 学	〃	宮 本 勝 伸	名 古 屋 大 学
〃	居 飯 正 人	日 本 工 業 大 学	〃	向 森 信 一	中 国 放 送
〃	石 井 啓 二	N H K 名 古 屋	〃 *	森 本 雅 和	N H K 福 岡
〃	井 上 明 彦	N H K 広 島	〃 *	八 木 伸 行	和 歌 山 大 学
〃 *	猪 俣 憲 治	N H K シ ャ ー プ	〃	山 田 一 淳	東 京 都 市 大 学
〃	大 角 田 貢 弘	三 菱 電 機	〃	吉 渡 健 介	T B S テ レ ビ
〃		N H K 福 岡	〃		兵 庫 県 立 大 学
〃		日 本 体 育 大 学	〃		東 京 都 市 大 学
〃		長 岡 技 術 科 学 大 学	〃 *		法 政 大 学
					北 陸 先 端 科 学 技 術 大 学 院 大 学
					北 海 道 放 送

(2) テストチャート委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	井 口 和 久	N H K	委 員	石 井 紀 彦	N H K
代表幹事	菅 野 勝 誠	K D D I 総 合 研 究 所	〃	洗 井 淳 樹	N H K
委 員	佐 藤 誠	日 本 テ レ ビ	〃	岩 鼻 幸 男	事 務 局 長

(3) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	馬 場 口 登 雄	大 阪 大 学	委 員	星 沢 拓 勝	日 立 L G デ ー タ ス ト レ ー ジ
代表幹事	森 住 俊 美	N T T	〃	菅 野 勝 誠	K D D I 総 合 研 究 所
委 員	石 井 紀 彦	N H K	〃	佐 藤 誠	日 本 テ レ ビ

(4) 広報委員会 (WebIT 化委員会統合)

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	齋 藤 英 雄	慶 應 義 塾 大 学	委 員	石 井 紀 彦	N H K
代表幹事	高 橋 裕 樹	電 気 通 信 大 学	〃	岩 尾 洋 英	フ ジ テ レ ビ

(5) 国際連携委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	高 橋 裕 樹	電 気 通 信 大 学	委 員	松 田 一 朗	東 京 理 科 大 学
代表幹事	岩 尾 洋 英	フ ジ テ レ ビ	〃	佐 藤 誠	日 本 テ レ ビ

(6) 長期計画検討委員会 (学会活性化委員会統合)

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 代表幹事	滝 嶋 康 弘 松 田 一 朗	KDDI 総合研究所 東京理科大学	幹 事 委 員	高 橋 裕 樹 森 住 俊 美	電 気 通 信 大 学 N T T

(7) 代議員選挙委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 委 員	伊 藤 崇 之 会 津 昌 夫	N H K - E S リ ア ン	委 員 "	本 間 康 文 岩 鼻 幸 男	T B S テレビ 事 務 局 長

(8) 電気・情報関連学会連絡協議会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員	松 田 一 朗	東京理科大学	委 員	石 井 紀 彦	N H K

(9) フェロー選定委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	齋 藤 英 雄	慶應義塾大学	委 員	町 田 賢 司	N H K
副委員長	馬場口 登	大阪大学	"	斎 藤 恭 一	N H K
幹 事	松 田 一 朗	東京理科大学	"	永 井 岳 大	東京工業大学
委 員	会 津 昌 夫	リ ア ン	"	新 井 啓 大	日本工業大学
(代議員)	猪 又 賢 司	三菱電機	"	樺 澤 哲 朗	パブリックグローバル・インテリジェンス
"	間 瀬 健 二	名古屋大学	"	陶 山 史 朗	徳島大学
(研究委員会)	森 享 宏	T B S テレビ	(フェロー)	新 谷 幹 夫	東 邦 大 学
"	秋 田 純 一	金 沢 大 学	"	大 関 和 夫	アルゴリズム研究所
	木 村 宗 弘	長岡技術科学大学			

(10) 名誉会員

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
泉 武 博	小野寺 正雄	谷 岡 健 吉	長谷川 豊 明	森 尾 稔
伊 東 晋 一	金 出 武 雄	谷 本 正 幸	羽 鳥 光 俊	安 田 浩
岩 崎 俊 一	久保田 啓 一	谷 永 井 研 二	羽 鳥 好 襄	矢 野 薫
内 池 平 樹	沢 辺 栄 一	中 嶋 村 正 之	濱 崎 宏 三	山 田 宰 彦
内 田 龍 男	末 松 安 晴	中 村 慶 久	林 島 敬 博	山 本 英 雄
江 藤 良 純	関 畑 文 雄	中 村 澤 台	原 島 敬 彦	吉 野 武 彦
榎 並 和 雅	高 武 田 康 嗣	西 澤 山 一	吹 抜 明 康	Carlos A. Paz de Araújo
大久保 榮 弥	武 竹 村 裕 夫	西 谷 川 伸	虫 上 仁 己	David Wood
奥 田 友 彌			村 上 仁 己	Om. P. khushu
小 沢 慎 治				

(11) 北海道支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支部長	本 庄 良 哉	北海道放送	運営委員	森 川 悟 郎	北海道放送
庶務幹事	傍 士 善 成	N H K 札幌	"	加 藤 慎 太	札幌テレビ放送
"	大 鐘 武 雄	北海道大学	"	樹 山 英 則	北海道テレビ放送
会計幹事	片 野 友 興	北海道文化放送	"	佐 々 木 正 巳	北海道科学大学
"	高 橋 康 二	テレビ北海道	"	白 田 昇	総務省北海道総合通信局
運営委員	藤 井 大 輔	N H K 札幌			

(12) 東北支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	工 藤 栄 亮	東北工業大学	運 営 委 員	塩 谷 達 聡	N H K 仙 台
庶 務 幹 事	金 義 鎮	東北学院大学	〃	畠 田 秀 廣	日 本 大 学
〃	佐々木 徳 昭	N H K 仙 台	〃	関 橋 勝 俊	八 戸 工 業 大 学
会 計 幹 事	浦 山 靖 博	宮城テレビ放送	〃	高 橋 本 秀	東 日 本 放 送
〃	野 地 昭 一	N H K 仙 台	〃	野 本 俊 裕	東 北 工 業 大 学
運 営 委 員	大 宮 恭 雄	東北インテリジェント通信	〃	原 藤 掛 英 秀	岩 手 朝 日 テ レ ビ
〃	加 藤 純 一	ダイヤモンド・パーツ	〃	星 三 浦 宏 宗	東 北 大 学
〃	栗 木 直 郎	東 北 大 学	〃	三 峰 田 宏 敏	福 島 テ レ ビ
〃	近 藤 直 光	東北総合通信局	〃	村 岡 裕 敏	N H K 仙 台
〃	嵯 峨 信 夫	仙 台 放 送	〃	山 岡 裕 敏	山 形 放 送
〃	佐 藤 信 夫	秋 田 テ レ ビ	〃	山 岡 裕 敏	東 北 大 学
〃	塩 入 諭	東 北 大 学	〃	山 岡 裕 敏	青 森 テ レ ビ

(13) 北陸支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	吉 高 淳 夫	北陸先端科学技術大学院大学	運 営 委 員	長 田 茂 美	金 沢 工 業 大 学
庶 務 幹 事	阿 部 雅 夫	N H K 金 沢	〃	東 海 彰 吾	福 井 大 学
〃	藤 原 晴 康	N H K 富 山	〃	齋 藤 英 二	N T T 西 日 本
会 計 幹 事	志 田 晴 康	富山テレビ放送	〃	京 村 伸 司	北 陸 放 送
〃	増 田 勉 一	N H K 金 沢	〃	柳 原 実 雅	富 山 テ レ ビ
運 営 委 員	高 松 純 一	富 山 大 学	〃	山 本 滋 一	北 日 本 放 送
〃	秋 田 俊 一	金 沢 大 学	〃	木 野 秀 一	N H K 金 沢
〃	吉 田 俊 一	福 井 大 学	〃	辻 合 秀 一	富 山 放 送

(14) 東海支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	石 橋 豊	名古屋工業大学	運 営 委 員	植 中 裕 史	アイシン精機
庶 務 幹 事	安 藤 嘉 高	N H K 名 古 屋	〃	小 川 玉 竜	東 海 テ レ ビ
〃	鬼 頭 俊 夫	総務省東海総合通信局	〃	木 島 敏 吾	岐 阜 大 学
会 計 幹 事	大 日 川 聡 一	C B C テ レ ビ	〃	服 部 敏 正	N H K 名 古 屋
〃	久 米 隆 嗣	N H K 名 古 屋	〃	土 屋 敏 正	総務省東海総合通信局
運 営 委 員	青 木 徹 司	静 岡 大 学	〃	大 塚 敏 彦	中 京 テ レ ビ
〃	新 見 琢 司	名古屋工業大学	〃	塚 田 敏 一	愛 知 工 業 大 学
〃	服 部 裕 史	日本CATV技術協会	〃	都 竹 愛 一	名 城 大 学
〃	植 中 裕 玉	静岡第一テレビ	〃	鶴 岡 信 康	三 重 大 学
〃	小 川 玉 竜	名 古 屋 大 学	〃	服 田 信 康	テ レ ビ 愛 知
〃	木 島 竜 吾	C B C テ レ ビ	〃	村 田 実 史	名 古 屋 テ レ ビ

(15) 関西支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	吉 田 恭 一	毎日放送	運 営 委 員	湯 川 純	三 菱 電 機
庶 務 幹 事	森 本 雅 和	兵庫県立大学	〃	村 上 文 弘	N H K 大 阪
〃	松 井 繁 明	毎日放送	〃	山 本 真 一	兵 庫 県 立 大 学
会 計 幹 事	澤 利 明	讀 賣 テ レ ビ	〃	加 地 靖 男	テ レ ビ 大 阪
〃	猪 又 憲 治	三 菱 電 機	〃	酒 澤 茂 之	大 阪 工 業 大 学
運 営 委 員	井 上 明 彦	シ ャ ー プ	〃	大 和 良 平	パ ナ ソ ニ ッ ク
〃	高 橋 秀 也	大 阪 市 立 大 学	〃	関 口 正 巳	住 友 電 気 工 業
〃	高 橋 史 昭	総務省近畿総合通信局	〃	杜 偉 薇	京 都 工 芸 繊 維 大 学
〃	滝 澤 亮 巖	讀 賣 テ レ ビ	〃	宮 本 伸 一	和 歌 山 大 学
〃	並 川 雅 之	関 西 テ レ ビ	〃	福 田 雅 哉	毎 日 放 送
〃	玉 木 雅 之	朝 日 放 送	〃	新 田 直 子	大 阪 大 学
〃	藤 田 玄	大 阪 電 気 通 信 大 学			

(16) 中国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	尾 関 孝 史	福 山 大 学	運 営 委 員	佐 々 木 輝 彦	テ レ ビ 新 広 島
庶 務 幹 事	尾 宮 淳 一	広 島 大 学	〃	高 橋 秋 賢	広 島 市 立 大 学
〃	山 野 浩 司	N H K 広 島	〃	林 田 二 昭	山 口 朝 日 放 送
会 計 幹 事	加 藤 雅 也	広 島 テ レ ビ	〃	佐 原 浩 昭	R S K 山 陽 放 送
〃	加 広 瀬 克 昌	N H K 広 島	〃	小 平 俊 也	広 島 ホ ー ム テ レ ビ
運 営 委 員	高 尾 忍 一	山 陰 中 央 テ レ ビ 放 送	〃	山 内 仁 紀	広 島 国 際 学 院 大 学
〃	佐 藤 栄 一	中 国 総 合 通 信 局	〃	中 村 正 幸	テ レ ビ 山 口
〃	高 橋 秀 明	日 本 海 テ レ ビ 放 送	〃	木 村 広 治	N H K 広 島
〃	高 德 永 好 一	N H K テ ク ノ ロ ジ ー ズ	〃	恵 良 勝 進	山 口 放 送
〃	松 野 知 宏	中 国 放 送	〃	有 信 進 二	岡 山 放 送
〃	道 西 博 行	岡 山 理 科 大 学	〃	秋 山 長 夫	山 陰 放 送

(17) 四国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	島 矢 勝 久	あ い テ レ ビ	運 営 委 員	野 中 宏 次	テ レ ビ 愛 媛
庶 務 幹 事	菅 原 淳 司	あ い テ レ ビ	〃	今 西 勝 規	愛 媛 朝 日 テ レ ビ
〃	河 野 勝 輔	N H K 松 山	〃	山 田 祐 介	高 知 放 送
会 計 幹 事	高 木 隆 弘	N H K 松 山	〃	上 田 正 哉	テ レ ビ 高 知
運 営 委 員	堀 内 和 広	四 国 総 合 通 信 局	〃	山 下 和 俊	高 知 さ ん さ ん テ レ ビ
〃	岡 本 好 弘	愛 媛 大 学	〃	鳴 滝 智 明	四 国 放 送
〃	成 見 淳 弘	N H K 松 山	〃	岩 井 芳 敏	西 日 本 放 送
〃	乗 松 義 弘	南 海 放 送			

(18) 九州支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	芹 川 聖 一	R K B 毎 日 放 送	運 営 委 員	野 久 仁 志	N T T 西 日 本
庶 務 幹 事	松 岡 剛 一	九 州 産 業 大 学	〃	大 川 祐 二	N H K 福 岡
〃	大 淵 健 児	N H K 福 岡	〃	渡 辺 孝 司	九 州 総 合 通 信 局
会 計 幹 事	富 田 良 彦	K B C 九 州 朝 日 放 送	〃	小 山 善 文	熊 本 高 等 専 門 学 校
〃	松 本 勝 宏	N H K 福 岡	〃	山 室 正 孝	R K K 熊 本 放 送
運 営 委 員	井 上 光 平	九 州 大 学	〃	藤 本 正 孝	長 崎 大 学
〃	山 下 清 海	R K B 毎 日 放 送	〃	松 崎 功 睦	N B C 長 崎 放 送
〃	松 崎 浩 一	九 州 朝 日 放 送	〃	渡 邊 重 訓	鹿 児 島 大 学
〃	毛 利 元 夫	福 岡 放 送	〃	小 川 重 訓	M B C 南 日 本 放 送
〃	小 野 晃 生	T V Q 九 州 放 送	〃	春 口 誠 弘	M R T 宮 崎 放 送
〃	嶋 田 豊 秋	N H K テ ク ノ ロ ジ ー ズ		後 藤 昌 弘	O B S 大 分 放 送

(19) 技術委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	伊東 晋	東京理科大学	委員	野中 雄一	日立
幹事	滝嶋 康弘	KDDI総合研究所	〃	篠原 弘一	パナソニック
〃	菅野 勝	KDDI総合研究所	〃	秋田 純一	金沢大学
特別理事	佐藤 誠	日本テレビ	〃	木村 宗弘	長岡技術科学大学
委員	石橋 豊	名古屋工業大学	〃	町田 賢一	NHK
〃	石井 紀彦	NHK	〃	斎藤 恭一	NHK
〃	星沢 拓	日立LGデータストレージ	〃	永井 岳大	東京工業大学
〃	洗井 淳彦	NHK	〃	新井 啓信	日本工業大学
〃	居相 直彦	NHK	〃	向井 哲	東京都市大学
〃	佐藤 真一	国立情報学研究所	〃	樺澤 史	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	小沢 冬平	TBSテレビ	〃	陶山 朗裕	徳島大学
〃	福本 正義	NEC	〃	渡辺	早稲田大学

<研究委員会>

(20) 情報センシング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	秋田 純一	金沢大学	委員	杉山 行信	浜松ホトニクス
副委員長	池辺 将一	北海道大学	〃	関根 寛	キヤノン
〃	廣瀬 裕孝	パナソニック	〃	近藤 久	オリンパス
幹事	小室 和弘	埼玉大学	〃	樽木 立	東芝
〃	下村 景一郎	立命館大学	〃	足立 俊徳	オリンパス
〃	香川 嵩人	静岡岡大学	〃	大澤 久	シーマイク
〃	徳田 理平	東京工業大学	〃	藤澤 大靖	三菱電機
〃	黒田 良一	東北大学	〃	栃木 山	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	船津 雄一郎	NHK	〃	西韓 相	ニコン
〃	山田 俊克	TSMC	〃	安富 啓	ブリルニクスジャパン
委員	堺前 健夫	NHK	〃	大倉 俊介	静岡大学
		SensAI	〃		立命館大学

(21) メディア工学研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	新井 啓之	日本工業大学	委員	入部 百合絵	愛知県立大学
副委員長	村松 正吾	新潟大学	〃	平野 晃大	関東学院大学
幹事	望月 貴裕	NHK	〃	石井 大伸	富士通研究所
委員	奥田 浩	北九州市立大学	〃	八木 美和	東京都市大学
〃	篠田 一馬	宇都宮大学	〃	片山 文子	NHK
〃	多田 昌裕	近畿大学	〃	山井 利憲	コニカミノルタ
〃	青木 義満	慶應義塾大学	〃	堀井 淳志	NEC
〃	根岸 博康	三菱電機	顧問	堀春 日塚	三菱電機
〃	Mehrdad Panahpour Tehran	名古屋大学	〃	大外 村佳	作新学院大学
〃	伊藤 康周	東北大学	〃	貴家 倉一	鹿児島大学
〃	田良 圭	NTTコミュニケーションズ	〃	上吉 俊和	龍谷大学
〃	河村 修弘	KDDI総合研究所	〃	渡川 貴麻	東京都立大学
〃	小川 佐子	拓殖大学	〃	曾我 昭行	東京工芸大学
〃	谷沢 彰	北海道大学	〃	東海 彰	福岡大学
〃		龍谷大学	〃		愛知県立大学
〃		福井大学	〃		北海道立大学
			〃		東京都立大

(22) マルチメディアストレージ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	町田賢司	N H K	委員	多田行伸	日立LGデータストレージ
幹事	武者敦史	富士フイルム	〃	関口竹通	NECネットエスアイ
〃	島田昌信	三菱電機	〃	大田中輝	横浜国立大学
〃	船橋正俊	N H K	〃	田中	九州大学
〃	文仙	福岡大学			

(23) 情報ディスプレイ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	木村宗弘	長岡技術科学大学	委員	小牧俊裕	パナソニック
副委員長	都築敏裕	N H K	〃	小佐藤真一	ジャパンディスプレイ
〃	山中北村篤志	J O L E D	〃	志賀智貴	電気通信大学
〃	石鍋隆宏	静岡岡大学	〃	清水水一	N H K
〃	山田雅浩	東京工業大学	〃	下水平美	静岡岡大学
〃	吉田茂人	シャープ	〃	白鈴木直樹	ブル学院大学
〃	奥山健太郎	ジャパンディスプレイ	〃	鈴鈴睦三	東芝立
〃	薄谷川武拓哉	N H K	〃	鈴鈴成史	メルク
〃	樋口昌芳	物質・材料研究機構	〃	陶関朗	宇都宮大学
委員	藤別井好圭	N H K	〃	関谷和泰	八戸工業大学
〃	奥田圭一	日立	〃	平橋樹	三菱電機
〃	中嶋宜高	N H K	〃	高津村静	工学院大
〃	足立昌哉	ジャパンディスプレイ	〃	時任井村省平	山形大
〃	沼尾弘孝	N H K	〃	富苗長中	鳥取大
〃	藤掛澤英史	東北大学	〃	根西陽一郎	三菱電大
〃	小野敏啓	N T	〃	根中口野芳昇	静岡大
〃	石井藤二	N H K	〃	浜平野田一	静岡大
〃	伊藤伸樹	東芝	〃	廣福古橋本隆	大日本印刷
〃	茨上平村佐四郎	産業技術総合研究所	〃	三子柴明茂	N H K
〃	上沢瑞芳	神奈川工科大学	〃	宮村上	新神戸電機
〃	後内池平樹	ノリタケカンパニーリミテド	〃	三村山	金沢工業大
〃	内田龍男	N H K	〃	三村山	ジャパンディスプレイ
〃	大沢通孝	大山商事	〃	三村山	NECビューテクノロジー
〃	大岡観林	仙台高等専門学校	〃	三村山	金沢工業大
〃	奥田村治	工業所有権協力センター	〃	三村山	尚美学園大
〃	奥村康	鳥取大学	〃	三村山	東北工業大
〃	小栗谷生信	名城大学	〃	三村山	N H K
〃	面蒲秀典	ニッパ	〃	三村山	N H K
〃	窪田泰市郎	ダイヤリサーチマーテック	〃	三村山	オプト・システム
〃	栗田林介	東海大学	〃	三村山	N H K
〃	小林洋志	凸版印刷	顧問	三村山	ジャパンディスプレイ
		成蹊大	〃	三村山	
		N H K	〃	三村山	
		山口東京理科大学	〃	三村山	
		鳥取大	〃	三村山	

(24) 放送技術研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	斎藤 恭一	N H K	(無線光)	岡田 実治	奈良先端科学技術大学院大学
副委員長	村田 英一	京都大学	〃	萩原 秀治	日本電業工業
〃	深澤 知巳	T B S テレビ	〃	グアンチャイユ	長崎大学
幹 事	神原 浩平	N H K	〃	齊藤 一幸	千葉大学
〃	鈴木 高幸	テレビ朝日	〃	塩沢 隆広	香川高等専門学校
〃	和泉 田智志	日本テレビ	〃	関 智弘	日本大学
〃	福本 正義	N E C	〃	武居 裕之	日立国際電気
〃	大水 内幹博	パナソニック	〃	前田 直樹	住友電気工業
〃	塩川 茂樹	東京工業大学	〃	松本 卓三	古河電気工業
委員	塩山 賢二	神奈川工科大学	〃	丸山 猛	古河電気工業
(放送・通信方式)	杉山 頌一朗	成蹊大学	〃	宮野 真由子	東芝インフラシステムズ
〃	関口 祥次	N H K	(放送現業)	榎 芳	T B S テレビ
〃	田中 弘	放送衛星システム	〃	甲斐 敏創	日本テレビ
〃	筒井 啓之	北海道大学	〃	小島 俊満	フジテレビ
〃	濱住 俊美	東京工業高等専門学校	〃	小齊 藤田	名古屋テレビ
〃	森住 川純	N T T	〃	津田 貴一	テレビ東京
〃	湯川	三菱電機	〃	並川	N H K
					関西テレビ

(25) 映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	向井 信彦	東京都市大学	委員	林 正樹	ウプサラ大学
副委員長	名手 久貴	東京工芸大学	〃	久保 尋之	東海大学
幹 事	岡市 直人	N H K	〃	森谷 友昭	東京電機大学
〃	田中 賢一	長崎総合科学大学	〃	中山 裕樹	朝日放送
〃	杉本 志織	N T T	〃	三ッ峰 秀	N H K
〃	Roberto Lopez-Gullier	立命館大学	〃	山口 健信	日本大学
委員	小黒 久史	凸版印刷	顧問	小杉 甲	東京都市大学
〃	白石 路雄	東邦大学	〃	小佐藤 癸浩	湘南工科大学
〃	檜山 茂雄	多摩美術大学	〃	吉川 幹夫	日本大学
〃	藤井 祐佳	テレビ東京	〃	新高 谷	東邦大学
〃	田中 敏光	名城大学	〃	高橋 時市郎	東京電機大学
〃	竹内 幸一	電気通信大学			

(26) 立体映像技術研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	陶山 史朗	徳島大学	幹 事	堀越 力	湘南工科大学
副委員長	掛谷 英紀	筑波大学	〃	三科 智之	N H K
幹 事	上原 伸一	A G C	〃	山本 健真	徳島大学
〃	氏家 弘裕	産業技術総合研究所	委員	木村 治宏	N T T ドコモ
〃	圓 藤 知博	長岡技術科学大学	〃	河 真秀	N H K
〃	小池 崇文	法政大学	〃	高橋 秀也	大阪市立大学
〃	高木 康博	東京農工大学	顧問	本田 捷誠	本田ひかり技研
〃	高田 英明	長崎大学	〃	奥井 夫人	情報通信研究機構
〃	藤井 俊彰	名古屋大学			

(27) ヒューマンインフォメーション研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	永井 岳大	東京工業大学	〃	小濱 剛	近畿大学
幹 事	福田 一	工学院大学			

(28) アントロプレナー・エンジニアリング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	樺澤 哲人	サンブリッジグローバルベンチャーズ	委員	中村 裕一郎	目白大学
幹事	山田 一宏	法政大学	〃	難波 和秀	流通経済大学
〃	石綿 五明	フレッジテクノロジー	〃	野長瀬 裕二	山形大学
〃	都築 正宏	サーバンヘルスケア	〃	末松 千尋	京都大学
〃	松井 哲夫	立命館大学	〃	本田 新九郎	N T T
委員	善本 正純	A Z C A	〃	平田 貞代	芝浦工業大学
〃	石井 正学	一橋大学	〃	松本 修一	日本ケーブルラボ
〃	江榎 之雄	イーユー	〃	安川 秀樹	パナソニック
〃	岡田 之剛	岡田工事部	〃	山本 忠幸	IChiKa総合研究所
〃	長内 厚史	早稲田大学	〃	横山 孝文	毎日放送
〃	加賀 有津子	大阪大学	顧問	Richard B. Dasher	Stanford University
〃	春日 正男	作新学院大学	〃	加納 剛太	高知工科大学
〃	片山 誠之助	住友電気工業	〃	倉重 光太	高知工科大学
〃	川口 盛之助	盛之助	〃	富沢 治真	高知工科大学
〃	鈴木 祐司	次世代メディア研究所	〃	平野 真一	福知山公立大学
〃	田路 則子	法政大学	特別委員	小川 紘一	東京大学
〃	谷岡 健吉	カイロスム	〃	榊原 清則	中央大学
〃	長畑 隆也	ロースム	〃	Carlos Pazde Araujo	コロラド大学

(29) スポーツ情報処理時限研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	渡辺 裕	早稲田大学	委員	田邊 智	大阪産業大学
幹事	角田 貢	日本体育大学	〃	筒口 正樹	崇城大学
〃	北原 格	筑波大学	〃	中村 純	エクォスリサーチ
〃	三上 弾	N T T	〃	長谷川 正純	東京大学
〃	三ッ峰 秀樹	N H K	〃	誉田 雅一	早稲田大学
委員	渡邊 亮	KDDI総合研究所	〃	前田 彰	早稲田大学
〃	内田 理	東海大学	〃	宮崎 慎	早稲田大学
〃	小沢 慎治	慶應義塾大学	〃	宮地 力	早稲田大学
〃	鹿嶋 雅之	慶應義塾大学	〃	村上 和	早稲田大学
〃	斎藤 英雄	慶應義塾大学	〃	山田 雅人	愛知県立大学
〃	高橋 佳三	びわこ成蹊スポーツ大学	〃	吉川 文	中京大学
〃	瀧 剛志	中京大学	〃	和田 智仁	びわこ成蹊スポーツ大学
					鹿屋体育大学

(30) 学会創立70周年記念大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	齋藤 英雄	慶應義塾大学	委員	甲斐 創	日本テレビ
幹事	石井 紀彦	日本テレビ	〃	神原 浩	N H K
〃	岩尾 紀洋	N H K	〃	鈴村 高平	テレビ朝日
〃	星沢 英拓	フジテレビ	〃	永井 岳大	東京工業大学
〃	洗井 淳	日立LGデータストレージ	〃	田良島 周	NTTコミュニケーションズ
委員	洗井 俊克	N H K	〃	谷沢 昭	東芝
〃	堀井 武順	N H K	〃	岡市 直	N H K
〃	薄井 信彦	N H K	〃	石綿 宏	フレッジテクノロジー
〃	船橋 賢二	N H K	〃	掛谷 英紀	筑波大学
〃	杉山 直樹	成蹊大学	〃	三ッ峰 秀	N H K
〃	前田 直樹	住友電気工業			

(31) 編集委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
編集長 副委員長 〃 編集幹事 (企画担当)	佐藤 真一	国立情報学研究所	編集幹事 (企画担当)	永井 岳大	東京工業大学
	山崎 俊彦	東京大学		中島 沼悠	大阪大学
	洗井 沙織	NHK		長橋 樋口	ソニー
	相田 羽英	JVCケンウッド		榎間 松下	電気通信大学
	相原 政希	NHK		松延 大徹	大阪大学
	ノ上 直己	テレビ東京		峯澤 彰子	パナソニック
	井ノ内 慎夫	KDDI総合研究所		矢田 紀洋	三菱電機
	越後 富修	TBSテレビ		山肩 洋大	東京大学
	遠藤 智邦	大阪電気通信大学		横山 部大	立教大学
	河原 彦彰	テレビ朝日		渡部 大志	埼玉工業大学
久保 田卓	倉掛 崇英	中央大学	(海外文献部門)		
	小池 野島	NHK	部門委員長 部門副委員長 部門委員	小森 賢史	KDDI総合研究所
	小野 敏智	法政大学		永井 翔昌	電気通信大学
	小森 智清	NFEテレビ		折原 野辻	TBSテレビ
	佐々木 幸信	NHK		西沢 崇龍	東京都立大学
	志々木 水木	奈良先端大学院大	(ニュース部門)	三本 天玄	三菱電機
	白園 知大	NHK		山本 卓一	NH
	伊地 知憲	NTT		涌波 史喜	東芝インフラシステムズ
	→高 丈貴	千代田大学		田宏 一信	情報通信研究機構
	寺 健博	総務省		浜田 健佑	立教大学
	戸 裕	総務省		中野 谷郁	日本テレビ
		フシ		池谷 保豪	NHK
		ア		→新 原翔一郎	NHK
		殖			NHK
		E			EC
		C			KDDI総合研究所

(32) 論文委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員 長 アドバイザー 幹 事 員 委 員	篠 田 浩 一 佐 藤 真 一 佐 野 雅 規 洗 井 淳 淳 藤 井 俊 彰 三ッ峰 秀 樹 河 村 圭 圭	東 京 工 業 大 学 国立情報学研究所 N H K N H K 名 古 屋 大 学 N H K K D D I 総合研究所	(英語論文編集委員会) 委員 長 副委員長 " 員	篠 田 浩 一 佐 野 雅 規 河 村 圭 圭 飯 山 将 晃 伊 丹 誠 郎 井 手 一 典 江 上 文 淳 太 田 弘 紀 小 川 英 二 掛 谷 二 郎 甲 藤 人 二 上 倉 一 祥 川 倉 卓 也 倉 掛 茂 之 酒 澤 直 樹 清 水 誠 伸 高 村 佳 子 外 田 直 幸 新 橋 本 美 紀 橋 谷 山 登 長 谷 口 智 導 馬 場 濃 彦 三 科 英 一 美 濃 伸 行 村 田 広 昌 八 木 俊 彦 柳 原 昌 彦 山 崎 俊 彦 Nam Ik Cho Alexamder G. Hauptmann Tae Kyoan Kim Benoit Huet Chong-Wah Ngo Antonio Ortega Jong-Il Park Georges Quenot Stefan Rueger Ming-Hsuan Yang	東 京 工 業 大 学 N H K K D D I 総合研究所 京 都 大 学 東 京 理 科 大 学 名 古 屋 大 学 近 畿 大 学 奈良先端大学院大学 北 海 道 大 学 筑 波 大 学 早 稲 田 大 学 東 京 工 芸 大 学 静 岡 大 学 N H K 大 阪 工 業 大 学 N H K - E S T N T T 龍 谷 大 学 大 阪 大 学 K D D I 総合研究所 北 海 道 大 学 大 阪 大 学 N H K 京 都 大 学 京 都 大 学 東 京 都 市 大 学 K D D I 総合研究所 東 京 大 学 Seoul National University Carnegie Mellon University E T R I E u r e c o m City University of Hong Kong University of Southern California Hanyang University Laboratory of Informatics of Grenoble The Open University University of California Merced
(和文論文編集委員会) 委員 長 副委員長 " 員	篠 田 浩 一 藤 井 俊 彰 三ッ峰 秀 樹 青 木 啓 史 秋 田 純 一 圓 道 知 博 大 竹 充 充 川 本 潤 一 郎 河 本 健 一 郎 京 田 文 人 久 保 尋 之 齊 藤 一 幸 櫻 井 将 人 下ノ村 和 弘 杉 田 純 一 孫 泳 青 高 橋 桂 太 田 中 賢 一 外 山 史 長 尾 慈 郎 室 井 哲 彦 山 田 一 人 吉 森 聖 貴	東 京 工 業 大 学 名 古 屋 大 学 N H K N E C 金 沢 大 学 長岡技術科学大学 横 浜 国 立 大 学 N H K 川 崎 医 療 福 祉 大 シリコンスタジオ 東 海 大 学 千 葉 大 学 静岡理工科大学 立 命 館 大 学 東京医療保健大学 N T T 名 古 屋 大 学 長崎総合科学大学 宇 都 宮 大 学 N T T N H K 法 政 大 学 日 本 文 理 大 学			

(33) 選奨委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	今井 亨	N H K	委 員	居相 直彦	N H K
代表幹事	松田 一朗	東京理科大学	〃	深澤 知純	T B S テレビ
〃	佐藤 真紀	国立情報学研究所	〃	秋田 純一	金沢大学
〃	石井 俊彦	N H K	〃	木村 宗弘	長岡技術科学大学
〃	森住 美拓	N T T	〃	町田 賢司	N H K
〃	星沢 勝誠	日立LGデータストレージ	〃	斎藤 恭岳	N H K
〃	菅野 誠彦	KDDI総合研究所	〃	永井 大之	東京工業大学
〃	佐藤 俊彦	日本テレビ	〃	新井 啓信	日本工業大学
〃	山崎 淳樹	東京大学	〃	向井 澤史	東京都市大学
〃	洗井 裕樹	N H K	〃	樺田 史朗	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	高橋 英樹	電気通信大学	〃	陶山 史朗	徳島大学
〃	岩尾 洋英	フジテレビ	〃	渡辺 裕裕	早稲田大学

(34) 「技術振興賞」進歩開発賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長	居相 直彦	N H K	委 員	新井 啓之	日本工業大学
代表幹事	菅野 勝朗	KDDI総合研究所	〃	名手 久貴	東京工芸大学
幹 事	松田 一朗	東京理科大学	〃	樺澤 史朗	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	石井 紀彦	N H K	〃	陶山 史朗	宇都宮大学
委 員	柳原 広昌	KDDI総合研究所	〃	渡辺 慎裕	早稲田大学
〃	深澤 知巳	T B S テレビ	〃	内田 敏誠	T B S テレビ
〃	佐藤 洋英	日本テレビ	〃	小河 誠司	フジテレビ
〃	岩尾 寛志	フジテレビ	〃	奥山 一敏	ソニー
〃	関村 篤賢	キヤノン	〃	竹中 英浩	パイオニア
〃	町田 高司	静岡大学	〃	相羽 樹之	N E C
〃	鈴村 幸生	N H K	〃	大西 裕靖	JVCケンウッド
〃	津田 貴生	テレビ朝日	〃	山崎 史一	パナソニック
〃	グァンチャイユ	N H K	〃	大山 崎靖	日本テレビ
〃	永井 岳大	長崎大学	〃	宮崎 藤	テレビ朝日
〃		東京工業大学	〃		テレビ東京

(35) 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長	深澤 知巳	T B S テレビ	委 員	大淵 健児	N H K 福岡
代表幹事	藤井 祐俊	テレビ東京	〃	澤近 松利	讀賣テレビ
幹 事	森住 内博	N T T	〃	栢分 仁祐	中京テレビ
〃	大洗 井博	パナソニック	〃	小林 俊二	朝日放送テレビ
〃	岩尾 洋英	N H K	〃	立石 正満	名古屋テレビ
〃	津田 貴生	フジテレビ	〃	樋口 裕治	毎日放送
〃	藤原 徹義	N H K	〃	松高 尚和	R K B 毎日放送
〃	藤田 義栄	日本テレビ	〃	平野 敏毅	テレビ大阪
〃	榎 栄一	T B S テレビ	〃	水川 樹一	テレビ愛知
〃	鳥飼 雄一	テレビ東京	〃	小川 裕賢	関西テレビ
〃	小島 敏文	フジテレビ	〃	武居 賢一	東海テレビ
〃	村上 弘	N H K	〃		日立国際電気
〃		大阪	〃		N E C

(36) 映像情報メディア未来賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部会長	菅野 勝	KDDI総合研究所	委 員	木村 弘	長岡技術科学大学
代表幹事	佐藤 一	日本テレビ	〃	町 斎	N H K
幹 事	松田 紀	東京理科大学	〃	永 新	N H K
〃	石井 俊	N H K	〃	向 井	東京工業大学
〃	森崎 裕	N T T	〃	山 井	日本工業大学
〃	山崎 淳	東京大学	〃	陶 田	東京都政大
〃	洗井 樹	N H K	〃	渡 山	法政大
〃	高橋 純	電気通信大学	〃	早 稻	徳島大
〃	秋 田	金沢大学			

(37) 「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞候補者選考投票委員（功・業）

同論文賞・鈴木記念奨励賞候補者投票委員（論・鈴）

役 名	氏 名	役 名	氏 名	役 名	氏 名
功・業・論・鈴	今馬 亨	功・業	会津 昌	役 論・鈴	織樹 沙
〃	馬 登	〃	青 池	〃	相 英
〃	斎 雄	〃	池 磯	〃	羽 英
〃	石 藤	〃	磯 伊	〃	原 大
〃	佐 藤	〃	伊 伊	〃	知 政
〃	松 田	〃	上 梅	〃	上 直
〃	星 井	〃	浦 大	〃	田 富
〃	菅 野	〃	片 金	〃	後 修
〃	佐 藤	〃	上 川	〃	合 智
〃	山 崎	〃	川 香	〃	原 邦
〃	洗 井	〃	岸 小	〃	掛 卓
〃	高 岩	〃	小 小	〃	池 崇
〃	三 伊	〃	小 小	〃	野 英
〃	居 深	〃	澤 柴	〃	島 敏
〃	伊 福	〃	杉 杉	〃	川 清
〃	野 篠	〃	杉 杉	〃	水 幸
〃	秋 木	〃	関 関	〃	木 信
〃	町 斉	〃	平 滝	〃	取 厚
〃	永 新	〃	谷 谷	〃	条 丈
〃	向 樺	〃	都 寺	〃	岡 貴
〃	樺 陶	〃	出 内	〃	島 悠
〃	渡 本	〃	中 西	〃	沼 宏
〃	工 吉	〃	長 平	〃	手 直
〃	吉 尾	〃	藤 松	〃	本 晴
〃	島 芹	〃	三 村	〃	口 以
〃	伊 榎	〃		〃	下 紀
〃	榎 尾	〃		〃	延 洋
〃	湯 吉	〃		〃	澤 大
		〃		〃	田 賢
		〃		〃	肩 宏
		〃		〃	山 浩
		〃		〃	部 俊
		〃		〃	田 秀
		〃		〃	井 雅
		〃		〃	野 規
		〃		〃	村 圭
		〃		〃	河